

内閣府男女共同参画局・男女共同参画推進連携会議
「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」
令和2年度 実施事業

若年層に向けた男女共同参画意識を醸成する教材

「しょう太くとあやちゃん どうしたらいいかな？」
授業案と実践例

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンター
後援：北区、世田谷区教育委員会

目次

1. 本企画の目的	1
2. 授業案と授業実践例	1
2-1. 「青いラジコンカーとお人形」授業実践	1
2-1-1. 授業案	1
2-1-2. 授業検討と実践例（柳田小1年生）	4
担任による授業実践例と教材検討（奥沢小1年生）	8
2-2. 「子ども大統領」授業実践	11
2-2-1. 授業案	11
2-2-2. 授業実践例（柳田小3年生）	13
担任による授業実践例と教材検討（奥沢小4年生）	18
2-3. 「私たちの未来」授業実践	22
2-3-1. 授業案	22
2-3-2. 授業実践例（柳田小6年生）	23
オンライン授業実践例と検討（柳田小5年生）	26
2-4. 「あやちゃんのやりたいこと」授業実践	29
2-4-1. 授業案	29
2-4-2. 担任によるオンライン実践例（奥沢小6年生）	31
3. 実践例に学ぶ	33

「しょう太くとあやちゃん どうしたらいいかな？」 授業案と実践例

1. 本企画の目的

日本の社会には、「男女」のみならず、様々な格差・差別の意識が根強く残り、こうした背景の中で育つ子どもたちの、意識の底に植え付けられていくアンコンシャスバイアスが、大人社会における男女の共同参画社会の実現を妨げる要因になっていると考えられる。現在直面する課題を解決すべく、男女共同参画の施策を繰り返すことの重要さは言うまでもないことであるが、できるだけ早い時期から、互いの良さや多様性を認め合い、「男女が自分たちの能力を十分に発揮して良い社会を作っていくことを貴ぶ」基本姿勢を醸成することは、極めて重要なことと考えられる。

こうした意識の形成は、自分や他の人に対しても個人の尊厳を守るという精神性の高さや豊かさの確立に加え、人口減少などによって、今後、日本の社会が活力を失うことにも対抗し得る、多様な人材の育成にも資すると考えられる。お茶の水女子大学において、「若年層に向けた男女共同参画意識を醸成する教材の開発と実証授業」の一環として進められている本企画が、内閣府による国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業に採択されたことから、男女共同参画意識を醸成する教材「しょう太くとあやちゃん どうしたらいいかな？」を様々な場で活用できるように、活動例をまとめたので参考にされたい。

2. 授業案と授業実践例

- 2-1. 小学校低学年向け 「青いラジコンカーとお人形」
- 2-2. 小学校中学年向け 「子ども大統領」
- 2-3. 小学校高学年向け 「私たちの未来」
- 2-4. 小学校高学年向け 「あやちゃんのやりたいこと」

2-1. 「青いラジコンカーとお人形」 授業実践

「しょう太くとあやちゃん どうしたらいいかな？」の「1. あやちゃんの青いラジコンカー」から抜粋して、道徳科として小学校低学年 1 限で行える授業のスタイルに発展させ、「青いラジコンカーとお人形」を制作。男女の嗜好性と将来の夢を題材に「男の子は車が好き、女の子はお人形遊びが好き」という固定観念があることがおかしいと気づくことにフォーカスした。

これらの教材をもとに、ロールプレイ資料も作成して「男女がそれぞれの違いを認め合い、それぞれの夢を伸ばすことを応援していくことの大切さを学ぶ授業」を北区柳田小 1 年生で実施した。意見交換する中で、将来の専門選択や職業選択において、男女の別にこだわることなく自由な選択肢があることを、子どもたち自身が気づく結果にもなった。授業は校長・担任の良い協力も得られ、公開授業としても実施され、保護者からも高い評価を得た。

2-1-1. 授業案

第1学年 道徳科 学習指導案

1 主題名 「偏見を持たない心」 C-公正、公平、社会正義

2 ねらいと教材

<ねらい> 自分の好き嫌いとらわれず、偏見を持たないようにする心情を育てる。

<教材> 「青いラジコンカーとお人形」 教材作成：中治未佳（世田谷区立奥沢小）（原案：滝澤公子）

<教材> 青いラジコンカーとお人形

きょうは、しょうたくんの 家に、お友だちの あやちゃんと かおりちゃんが 遊びに 来ます。
二人とも、一番 大切にしている おもちゃを 持って来ることになっています。
「あやちゃんと かおりちゃん、早く 来ないかなあ」

ピンポン

「あ、いらっしやい」
「こんにちは、しょうたくん。おもちゃ 持って来たよ。一緒に 遊ば」
あやちゃんが、言いました。
「私も 持って来たよ」
かおりちゃんが 言いました。

あやちゃんは、持って来た、大きな ふくろの 中から、大事そうに、おもちゃの
入った はこを とり出しました。
「じゃあ、見せてあげるね。これが、私の 一番 大事なもの。ジャーン」
それは、青い ラジコンカーでした。
しょうたくんは、その 青い ラジコンカーを じっと 見つめました。

すると、かおりちゃんが
「あやちゃんは 女の子だから、大事な おもちゃって、お人形さんか ぬいぐるみだと思ったわ。
私の 大事な おもちゃは、このお人形よ。かわいいでしょ」
と、言いました。
「お人形さんも ぬいぐるみも 好きなの。でも、今は、ラジコンカーが 大好き。ほら、こやると 前進、右に 転回ー。
私、大きく なったら、車を 作る人になりたいな」
あやちゃんが、そう 言うと、かおりちゃんが すかさず、
「車を 作るのは、男の人の お仕事だよ。あやちゃんは、女の子でしょ」
と、言いました。
「女の子が ラジコンカーを 好きになったら だめなの？女の子は、車を 作る人になれないの？」
と、あやちゃんが 言うと、かおりちゃんは、何も 言えなくなりました。

しょうたくんは、二人の すがたを 見て、考えてしまいました。
二人の 前には、青い ラジコンカーと お人形が、さびしそうに おかれていました。

<資料>

ロールプレイ用台本 1 枚及びワークシートを用意。

ロールプレイ用台本：

じゃあ、みせてあげるね。
これが わたしの ーばん だいなもの

あやちゃんは 女の子だから、
だいな おもちゃって おにぎょうさんか
ぬいぐるみだと おもったわ。
わたしの だいな おもちゃは、
この おにぎょうよ。 かわいいでしょ。

おにぎょうさんも ぬいぐるみも すきな。
でも、いまは ラジコンカー 大すぎ。
わたし、大きくなったら、
車をつくる人 になりたいな。

車をつくるのは 男の人の おしごとだよ。
あやちゃんは、女の子でしょ。

女の子が ラジコンカーを すきになったら
だめなの？
女の子は 車をつくる人になれないの？

・・・？
しょうたくんは なんかを かんがえたかな。
ワークシートに かいたことを はっぴょう しよう。

ワークシート：

○ふたりのようすをみて
しょうたくんはどんなことを考えたで
しょう
○じぶんで考えたことをふりかえろう
○かんそう

3 展開の概要

	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 男の子、女の子について思ったことを話し合う。 ○ 男の子と言えばどんなイメージですか？ 女の子と言えばどんなことを思い浮かべますか？	発言を板書する。
展開	2 「青いラジコンカーとお人形」の寸劇 ○ あやちゃんとかおりちゃんが遊びに来るのを待っているとき、しょうたくんはどんな気持ちだったでしょうか？ ・どんなおもちゃを持ってくるのか楽しみだな。 ・持ってきたおもちゃで遊びたいな。 ○ あやちゃんが持ってきた青いラジコンカーを見た時、しょうたくんはどのようなことを考えたでしょうか？ ・女の子もラジコンカーで遊ぶんだ。驚いた。 ・女の子でラジコンカーが好きなんて変わってる。へん。	「しょうたくん」の絵を画面に映し出す。 「あやちゃん」と「かおりちゃん」の会話を劇で表現する。 何人かに考えを発表してもらおう。 ①何人かに言葉を言ってもらおう。

	<p>◎ 二人のようすを見てしょう太くんはどんなことを考えたでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。こまったな。何か言いたいけれど、何て言ったらいいのかわからない。きまずいな。 ・自分もかおりちゃんと同じで、あやちゃんはおかしいと思う。女の子は女の子らしくしたほうがいい。 ・あやちゃんの言っていることもわかる。女の子も車が好きになっていいと思う。 <p>3 今までの自分の生活を振り返る。</p> <p>○ 「男の子のくせに…」 「女の子だから…」 と他の人から言われたり、自分で思ったりしたことはありませんか？ また、その時どんな風に思いましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子だから荷物もてるでしょ。→ おかしいと思う。 ・女の子がそんなこと言うなんて、生意気。→ なんで女だと生意気って言われなきゃいけないの？ 不思議。 	<p>② ワークシートに考えを書き、「女の子なのにラジコンカーは」「女の子は車を作る人になれない」の偏見に気づく。</p> <p>③ 3人であや、かおり、その様子を見ていたしょう太役を演じ、しょう太が考えたことに迫る。</p> <p>導入で取り上げた「男の子と言えば、女の子と言えば」の板書をもう一度見直して、自分たちのもっている偏見に気づく。また、その偏見で嫌な気持ちになることにも気づく。</p>
終末	4 授業をふり返り、思ったことを書きとめる。	考える時間を確保する。

4 評価

人はそれぞれ好きなことが異なること、また、その好きなことに対して偏見があることに気づいたか。
偏見を持たないようにする気持ちが育ったか。

2-1-2. 授業検討と実践例

「青いラジコンカーとお人形」授業実践報告

第1回

日時：平成31年2月18日（月）10時40分～11時25分

場所：北区立 柳田小学校 対象：1年1組 25名

教材：各自にA4紙に印刷して配布 授業形態：出前授業（実践：後藤郁子、滝澤公子）


第2回

日時：平成31年2月23日（土）8時45分～9時25分

場所：北区立 柳田小学校 対象：1年2組 25名

授業形態：出前授業（実践：後藤郁子、滝澤公子）

	主な発問と展開	児童の反応（1組）	児童の反応（2組）
導入	<p>1 男の子、女の子について思ったことを話し合う</p> <p>○ 男の子と言えばどんなイメージ？ 女の子と言えばどんなことを思い浮かべますか？</p>	<p>男の子は元気、女の子は優しい、かわいいなどの発言があった。</p>	<p>男の子は元気、スポーツが好き、よく食べる。女の子は優しい、かわいい、髪型がいろいろ、などの発言が次々に出た。</p>
展開	<p>2 講師が「青いラジコンカーとお人形」を読み聞かせ</p>		<p>同左</p>

	<p>○ あやちゃんとかおりちゃんが遊びに来るのを待っているとき、しょう太くんはどんな気持ちだったでしょうか？</p> <p>○ あやちゃんが持ってきた青いラジコンカーを見た時、しょう太くんはどのようなことを考えたでしょうか？</p>	<p>「楽しみ」「早く遊びたいな」などの発言。</p> <p>「女の子もラジコンカーで遊ぶんだ」</p>	
	<p>3 授業の中心的発問</p> <p>◎ 二人のようすを見てしょう太くんはどんなことを考えたでしょうか？</p> <p>講師が寸劇を行って、あやちゃんとかおりちゃんの会話を表現し、しょう太くんがどんな意見をもったか考えさせる。数名が発表。</p> <p>しょう太くんの気持ちを想像して、ワークシートに記入しましょう</p> <p>◎ ロールプレイをしてみましょう</p> <p>3名ずつのグループになって、あや、かおり、その様子を見ていたしょう太役を演じ、しょう太が考えたことに迫る。役を入れ替わる。</p> <p>4 これまでの自分の生活を振り返る</p> <p>○ 「男の子のくせに…」 「女の子だから…」と他の人から言われたり、自分で思ったりしたことはありませんか？ また、その時どんな風に思いましたか？</p> <p>○ 自分がそういうことになったらどうしますか？ 数名が発表。</p>	<p>「困ったな、どうしよう」</p> <p>「早く遊びたい」</p> <p>「けんかをやめて仲良くしてほしい」</p> <p>「女の子も車が好きになっていいと思う」</p> <p>「おたがいさまだと思う」</p> <p>「言い過ぎだよ。女の子でも車やさんになれるのに」</p> <p>しょう太役の児童は、自分がワークシートに記入した「しょう太くんの気持ち」を発表する。</p> <p>あまり「男のくせに」「女の子だから」などと言われたことがない様子。</p> <p>「皆で遊べるようにする」</p> <p>「誰にも親切にする」</p> <p>「おたがいさまじゃないと言って解決させる」</p>	<p>「けんかをやめてなかよく遊ぼうよ」</p> <p>「僕が話をよく聞いてあげるよ」</p> <p>「女の子なのに、なぜラジコンカーを持ってるんだろう」</p> <p>「車を好きでもいいけど、車を作るのは男の役目じゃないのかな」</p> <p>「別に青いラジコンカーでもいいのにな」</p> <p>「女の子も車が好きになっていいと思う」</p> <p>「女の子でも車を作る人になれるんじゃない？」</p> <p>「あやちゃんがかawaiiそだな」</p> <p>しょう太役の児童は、自分がワークシートに記入した「しょう太くんの気持ち」を発表する。</p> <p>4. 担任の勧めを受け入れて、「女の子はやはりお人形で遊んだらいいんじゃないかな」という意見に焦点を当てる展開とした。</p> <p>○ そう思う人は立ってみて。4名</p> <p>○ 意見を発表してみてください。</p> <p>児童の発表の後で、担任（男性）が「僕がお人形で遊んじゃダメ？ なんで？」と問いかけた。</p> <p>「男は車が好き」</p> <p>「私はお人形が好きで車は好きではないから」</p> <p>「女の子ならお人形で遊ぶと思う」</p>
<p>終末</p>	<p>5 授業を振り返り、思ったことを書きとめる</p> <p>自分たちのもっている偏見に気づく。ま</p>	<p>「好きなものは人それぞれだ」と思う」</p>	<p>「私はラジコンカーが好きではないけど、今度弟と遊んでみようと思った」</p>

<p>た、その偏見で嫌な気持ちになることにも気づく。</p> <p>○ワークシートに、自分の考えたことを振り返って書きましょう。</p> <p>講師から、児童たちの授業内容の理解、相手へのいたわり、積極的な発言を評価する言葉かけをして終了。</p>	<p>「（かおりちゃんのように強い言葉でなく）優しい言葉かける」</p> <p>「女がラジコンカーを好きになってもいいと思います」</p> <p>「男だからだめとか、女だからだめとかはない」</p>	<p>「うちにはお人形があってよく遊ぶけれど、たまには電車レールやラジコンカーで遊んでみたい。」</p> <p>「女の子でもラジコンカーが好きでいいと思う」</p> <p>「みんないろいろ違う意見を持っていることが分かった」</p> <p>→講師発言</p> <p>本当に、いろいろな考え方があるわね。どんどん発表できてすごい。</p> <p>「私の意見は変わりました。私はラジコンカーに興味がない人ですが、お父さんと一緒にやってみたいです」</p> <p>「みんないろいろな意見を持っていてすごいと思いました」</p> <p>「みんな好きなものが違うから、人の好きなものを怖い声でとか言わないほうがいいと思います」</p> <p>「私はラジコンカーを持っていないけど、自分のなりたい夢は自由自在。夢の車を作る人になっていいと思う」</p> <p>「どうしてラジコンカーが好きになったのか聞いてみたいと思いました」</p> <p>「女の子がラジコンカーをやってもいいと思う」「自分が好きなものでいいと思う」</p> <p>「男の子用とか、女の子用とか関係ないと思いました」</p>
--	---	---

1 組実践 担任の意見：

- ・導入では、「男らしく、女らしく」の具体例をまず出してみる。ピンクが好きなのは女の子？男の子？など。
- ・視覚に訴えるものがあるとわかりやすい。
 - ロールプレイの読み合わせがしやすいように、3人の顔と吹き出しの付いたセリフの紙を用意する。
 - 講師の寸劇の時にかぶるタイプのお面を用意する。
- ・女の子がラジコンで遊ぶ話より男の子がお人形で遊ぶという設定のほうが、「え。何かおかしいよ」と言う子が多いかもしれない。

講師の振り返り

- ・担任の的確なサポートがあり、授業の流れもスムーズで、次に活かせる気づきを得ることができた。
- ・手元の資料などもあるので、映像（パワーポイントスライド）は散漫になるかもしれないということで使用しなかった。
- ・「男の子はどんなイメージ？」という問いかけが、あまりピンとこなかった様子。それほど意識していない年齢かもしれない。

思い起こせる事例を用意したほうがいい。

- ・「女の子なのにラジコンカー？と思ったこと」や、「女の子だったらこうすべき、と言われたこと」への違和感よりも、軋轢のある場面で、まず、仲良くしなければならぬ、という思いが先に立つらしい。
- ・ワークシートにまとめた意見では、大方の児童に、「女の子が車を作る人になっていい。男も女も関係ない。したいことをしてよと思う」という思いが読み取れたが、「けんかをやめて仲良くすること」がゴールとなった感があった。子どもたち自身が「おたがいさま」という仲裁の言葉を出して、解決しようとしていた。「おたがいさま」は通常子どもが使う言葉ではないので、どのような場面で学んだのか興味深い。「おたがいさま」というだけでは、アンコンシャスバイアスへの気づき、公正というところに及ばないかもしれない。どちらも認める、どちらもいい、という意見が出たとき、どう介入するか考えたい。

評価：「人はそれぞれ好きなことが異なる。また、女子でも男子でも同じく好きなことをしてよいはず」という気持ちは共有できていた。また子どもなりに解決を考えていく姿勢を見せていたときに、例えば「女の子なら女の子らしく」というような意見を持つことの課題について、さらに質問を続けていけば、もう少し深められたのではないかと思われる。

2 組実践

・終了時講師発言

皆がいろいろな意見を発表して、それを聞いて皆がそれぞれ考えてすばらしいと思いました。見学していらっしゃるお母さんにも意見を聞きましょう（見学者の母親から授業の意図を汲んだ発言や子どもの取り組みを評価する発言があり、これをまとめし全員で拍手して終了）。

振り返り

- ・「男の子はどんなイメージ？」という問いかけに対して、今回は活発な意見が出た。
- ・児童の読み合わせの場面では、顔や吹き出しの付いたセリフの紙、お面、名札などが有効であった。
- ・しょう太の気持ちを想像する場面で、「女の子でもラジコンカーが好きでかまわないと思うな」などというセリフを当てる児童も多くみられたが、「女の子のだいじなものがどうしてラジコンカーなの？」という意見を書く男子児童がいた。担任から「このクラスの子どもたちは、この考えを取り上げるといいかも」との声があり、一通り発言があった後で担任にバトンを渡した。
担任から： 普段の道徳の学習でも、違った意見が出ると、それに対して皆で話し合い、「どうしたら良いか」「何が良いのか」を考えている。結論は出ないが、全員が意見や考えをある程度もって、終わる授業にしている。今回も、ある点にしぼったほうがいいのか？と思い、また、男女共同参画ということで、不安ではあったが、男の子の書いた意見を見たときに、「この意見なら話し合える」と思い提案した。
- ・担任（男性）が、「先生がお人形で遊びたいって言ったらどう？」と問いかけた場面から、子どもたちは「偏見」について自分の中で考え出したように感じた。子どもたちの様子に変化が見られた。担任との連携の大事さを感じた。「女の子が車好き？という違和感」を感じたことを、それぞれが腑に落として、子どもたちがそこから「自分自身と違う気持ちの人に対して、どうしたらいいか考える」というステップを上がったように感じられた。「女の子がなぜ車なのか」という意見を書いた児童は最後に「女の子も好きなことをしていい。自分も妹と一緒に遊んでみようと思った」と発表し、皆も賛成の拍手をしていた。子どもたちの考えが変わった（広がった）ところが捉えられた。
- ・違和感のある相手に対し、「相手の話をよく聞いてみたら、仲良くできるんじゃないか」という意見や、「私の好みとは違うが、相手の好きなことを一緒にやってみる」という、相手の好みにも歩み寄ろうとする姿勢の意見に、子どもたちがとても納得した様子が見取れた。固定化した考えを持たずに多様性を受け入れることに通ずると思われる。最後にワークシートに「いろいろな考え（思い、好みなど）があることがわかった」と書く児童がいた。

- ・担任の適切な介入が有効に働いた。柳田小学校は、さまざまな外部の講師の話を聞く機会を多く作っているとのこと
で、子どもたちは人の話を聞いて受け入れ、自分なりに考えるということができているように思えた。
学級（学習）環境の良さがあり、子どもたちは、頭で良し悪しを考えるのではなく 自分が素直に思うことを言えて
いた。
- ・性別に対する偏見などがほとんどないと思われる年齢の子どもたちへのアプローチに難しさを感じていたが、問いかける
内容を吟味することで、自分の思いと向き合い「自分なりに考える」「友だちの思いや意見を考える」機会になること
がわかった。偏見がない時期に多様性や他者の想いを尊重することをフラットな雰囲気と考えていくことの意味は大
きいと実感した。
- ・見学者から授業の意図を汲み取った発言があり、子どもたちが本授業で考えたことの意義を改めて感じるものとなっ
た。（母親 2 名の意見）：「私は心理学を学んで、性別に関わらず個性を活かせる社会であるべきと思っている。
この授業は、まだ小さいうちからそうしたことに気づく、とても良い授業だと思った」「子どもが、人がそれぞれさまざまな
意見を持つことに気づいたことがとても良かったと思う」

評価：「人はそれぞれ好きなことが異なる」また、相手の好きなことに対して違和感があるときの対策として「人の話を聞く、
相手のやり方に寄り添ってみる」など、自分自身で考え、自由に発言できていた。性別だけでなく、外見の異なる人などに
対しても、固定化した考えを持たずに多様性を受け入れることに通ずると思われ、高く評価できると考える。子どもたちに
も楽しく納得のいく授業となったと思われた。 （報告：滝澤公子）

担任による授業実践例と教材検討 「青いラジコンカーとお人形」 第 3 回 奥沢小における授業展開

日時：令和 2 年 11 月 25 日（水）10 時 15 分－10 時 45 分、 11 時 25 分－12 時 05 分

場所：世田谷区立 奥沢小学校

対象：1 年 1 組 30 名、1 年 2 組 31 名 授業案：奥沢小担任（原案 後藤郁子）

授業形態：奥沢小担任による通常・道徳科授業

	学習活動 発問と展開、 ●指導上の留意点	児童の反応（2組） 教師の言葉かけ	児童の反応（1組） 教師の言葉かけ
導 入	1 男の子、女の子について思っ たことを話し合う。 ・男の子と言ったらどんなイメージ ですか？女の子と言ったら どんなことを思い浮かべますか？ ●潜在的にもっている男女のイメ ージについて話し合うことで狙いと する道徳的価値への方向付けを 行う	（10：15～） 一斉に挙手 男の子：元気、星と車が好き、体が 大きい、足が速い、力が強い。 女の子：ハートが好き、優しい、 ピンク、ネックレスや飾り。	（11：25～） 男の子：強い、かっこいい、髪が短い、あきらめ ない、頭がいい、運動神経がいい。 女の子：かわいい、しつこい、髪が長い、アレン ジ、怖い、気が強い、体が柔らかい、バレエのイメ ージ。
展 開	2 「青いラジコンカーとお人形」 について話し合う。 登場人物の顔のカード提示 「今日はしょう太くんの気持ちにつ		（11：35）紙芝居を先生が読む（あやちゃ んの声はやや強い） 登場人物カードでしょう太の気持ちを確認 （女）ラジコンカーすごいな。

<p>いて考えます」 紙芝居を実施者が読む OHPで紙芝居を映し出す ○あやちゃんが持ってきた青いラジコンカーをじっと見つめているとき、しょう太くんはどのようなことを考えていた？ 黒板に紙芝居の当該場面を掲示 ●しょう太くんに共感させることで、潜在的にある偏見について、自分とのかかわりで考えさせる。</p> <p>かおりちゃんが「車を作るのは男の人のお仕事だよ」を発する場面 黒板に紙芝居の当該場面を掲示。二人のセリフを吹き出しを使って掲示した絵に追加 ◎二人のようすを見て、しょう太くんはどんなことを考えたでしょうか。 ●しょう太くんに共感させることで、自分自身も偏見を持って接しようとしていたことに気づいたときの感じ方を出させる。</p> <p>3 今までの自分の生活を振り返る。 ○「男の子のくせに」「女の子だから」と他の人から言われたり、自分で思ったりしたことはありませんか。また、その時はどのように思いましたか。 ●偏見を持って相手から働きかけられた経験を想起させることで男女の偏見について自己理解を深めさせる。</p>	<p>紙芝居をしてから顔カードでお話を振り返り。 (女) 女の子がふつうかわいいものを持ってくるのに、そうじゃなくて、かっこいいものだった。 (女) いいなあ。 (男) ほしいなあ。貸してもらいたいなあ。 「みんなはどう思う？」 紙芝居のしょう太の顔が困惑していることに注目させて、しょう太の考えを問いかけ。 「かわいそう、なれるよ」 挙手で発表 (女) けんかしてるままじゃ困る。後で仲直り。 (女) どちらもいいものだけだな。女の子もどっちでも使えるよ。 (男) 一緒に遊べばいいのになあ。 (男) あやちゃんの言ってること(ラジコンカーも好きでいい)が正しいんじゃないかな。 (10:30) 「みんなもそんな経験はない？」 (女) 母から：おもちゃ屋さんでミニカーがほしかったのに、女だからダメと言われた。「どんな気持ちだった？」「いやな気持ち」 (女) 幼稚園でサンタさんからプレゼント。車の乗り物がほしかったのに「それ違うんじゃない？」と言われた。 「男の子だからとか女の子のくせにと言われたことある？」 (男) あまり言われたことない。</p>	<p>(女) 早く遊びたい。 (男) ラジコンカー持ってるのいいなあ。 (男) あやちゃんの大事なものって青いラジコンカーなんだー 「その意見はどんな気持ちが入ってるの？」 (男) 女の子なのに「青い」「車か」。 (女) 女の子なのにびっくりー。 (男) 男の子みたい。 「同じような意見ある？」 (11:45) 「あやちゃんはおこってるね。なぜ？」 (男) 自分にとって大好きなものをだめだと言われたから。 (女) 自分が好きなものをどうして他の人が決めるの？ 「なぜかおりちゃんはダメって言ったの？」(全員) 好きなものが男の子っぽいから。でも自分にとって大事。 (女) 大切なものをダメと言われたら悲しい。 (男) かおりちゃんのことばがひどすぎる。 (女) 男の子も女の子も関係ない。好きな道に行ったっていいんだよ。 (女) 自分の好きなことは自分で決めていい。自分以外のことを決めちゃダメ。(同じ～) (11:55) 「しょう太の気持ちになりきってワークシートに書いてください」 みなすらすらと書く。ペアの人と読み合う。 (12:05) 発表 (男) おもちゃが男っぽいからけんかしてるんだな。 (女) 男、女なんて関係ない。どっちでもいい。 「関係ないっていう言葉を書いた人、他にもいたね」 「しょう太くんは、女の子なのによって思ってたけど、気持ちが変わったね」 (12:07) (男) 自分が公園で、女の子はお人形で遊べばいい！って言っちゃった。 (女) 保育園でお絵かきの時、男の子から、女の子はピンクでしようと言われた。 「その時どんな気持ちでした？」 好きなほうでいいのって思った。 (同様例を話す児童数名)</p>
--	---	--

	(評価) 偏見を持たずに、誰に対しても公正・公平に接することの大切さについて考えを深めていたか。		
終末	4 教師の説話を聞く。	先生（女性）：野球をしたかったけれど、男子に決まっています、先生の方は女子はキックベースだった。みんな、好きなものはいろいろでいいじゃないかと思えます。 （男）僕たちのチームは女の人も入れるよ。少ないけれど。 最後にワークシート記入、発表 （男）女の子でも車を作る人になれるのにな。（男）作っている。 （女）女の子だからとか男の子とか関係ない。一緒に遊べばいい。	先生（女性）：変身ヒーローが好きだったけど、女だからと、そのことは友達と話さなかった、そういう思い出があるよ。 (12:10)

<担任の振り返りと教材検討>

- ・「男の子も女の子も、関係ない」という考えが多く、子どもたちの中に「男の子だから」「女の子だから」という意識があまりない。家庭で言われた経験も少ないのだと感じる。しかし固定化したイメージを持っている。
- ・低学年の資料としては、終わり方がふんわりしていて、そういう意味で子供たちは「もう終わり？」のような反応をしていたようだった。
- ・補助発問を工夫しないと「友情」に偏る。「仲良くしよう」というイメージが強くなった。
- ・しょう太の気持ちに共感させて授業を進めようとしているが、最初にあやちゃんが車を取り出した時のしょう太の描写では、低学年には気持ちが受け取りにくい。「じっとみつめた」だけでは、「ラジコンカーがうらやましい」という感想も出る。もう少し、しょう太が感じた違和感をはっきり書いたほうが展開しやすい。校長も交えた検討の結果、以下の改良を行った。

(報告：滝澤公子)

<教材の改良例> 青いラジコンカーとお人形

「青いラジコンカーとお人形」

きょうは、しょう太くんの 家いえに、お友だちの あやちゃんと かおりちゃんが 遊びあそびに 来きます。

二人とも、一番いちばん 大切にたいせつにしている おもちゃを 持もって来きることになっなっています。

「あやちゃんと かおりちゃん、早く 来こないかなあ。 きっと お人形にんぎょう 持もって来きるよ」

ピンポン

「あ、いらっしやい」

「こんにちは、しょう太くん。おもちゃ 持もって来きたよ。一緒いっしょに 遊あそぼう」

あやちゃんが、言いいました。

「私わたしも 持もって来きたよ」

かおりちゃんが 言いいました。

あやちゃんは、持って来た、大きな ふくろの 中から、大事そうに、おもちゃの 入った はこを とり出しました。

「じゃあ、見せてあげるね。これが、私の 一番 大事なものの。ジャーン」

それは、青い ラジコンカーでした。

(あれー、お人形じゃないんだー)

しょう太くんは 目を丸くして、その 青い ラジコンカーを 見つめました。

そのとき、かおりちゃんが

「あやちゃんは 女の子だから、大事な おもちゃって、お人形さんか めいぐるみだと思ったわ。

私の 大事な おもちゃは、このお人形よ。かわいいでしょ」

と、言いました。

「お人形さんも めいぐるみも 好きなの。でも、今は、ラジコンカーが大好き。ほら、こうやると 前進、右に 転回一。

私、大きく なったら、車を 作る人になりたいな」

あやちゃんが、そう 言うと、かおりちゃんが すかさず、

「車を 作るのは、男の人の お仕事だよ。あやちゃんは、女の子でしょ」

と、言いました。

「女の子が ラジコンカーを 好きになったら だめなの？

女の子は、車を 作る人になれないの？」

と、あやちゃんが 言うと、かおりちゃんは、何も 言えなくなりました。

しょう太くんは、二人の すがたを 見て、考えて しまいました。

二人の 前には、青い ラジコンカーと お人形が、さびしそうに おかれていました。

2-2. 「子ども大統領」授業実践

「女性が組織の意思決定の位置に就くことに対するこだわり」を扱った教材。実施に当たっては、活発で興味深い授業展開を経験することができた。子どもたちが自分自身の男女の役割に固定観念を持つことに気づきを得られたことも感じられ、教師や授業参観の保護者からも高評価を受けた。

2-2-1. 授業案

第3学年 道徳科 学習指導案（後藤郁子）

1 テーマ 「公平な心を育てる」 内容 中学年 公正、公平、個性尊重

2 ねらいと教材

<ねらい> (1) 他人事ではなく、自分事として考える。

・自分にも「男の子だから・女の子だから」という偏見があることに気づく。

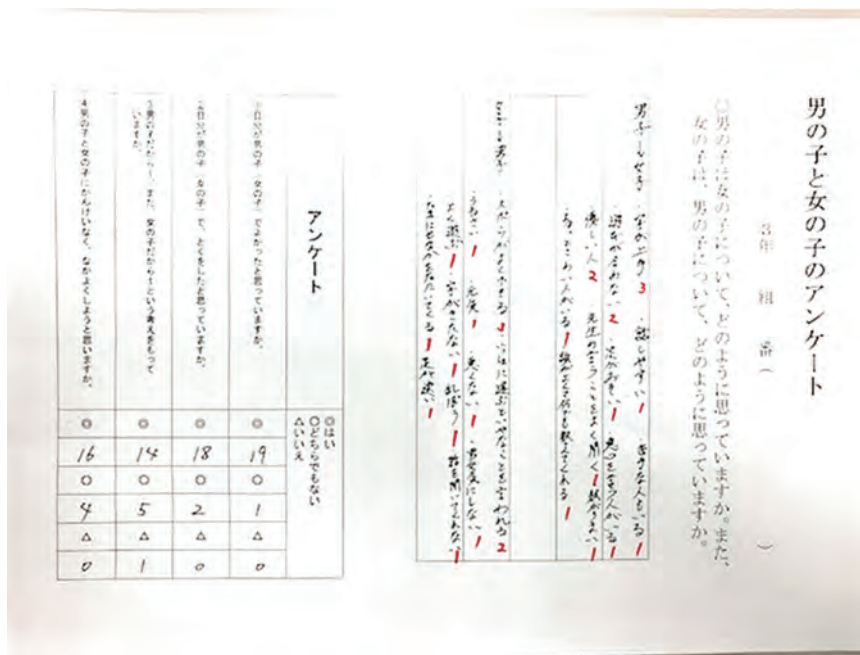
・男女の違いから否定されたりしたら嫌な気持ちになることに気づく。

(2) 男女の違いを感じたときにどうすればよいかを考える。

・男女の違いに縛られず、互いを尊重し認め合うことの大切さを考える。

<教材> 「子ども大統領」（教材作成：滝澤公子）

<資料> 男の子と女の子のアンケート（授業前に実施）



③男の子だから～、 また、女の子だから～と いう考えをもっています か。	◎ 14 ○ 5 △ 1
④男の子と女の子にか んけいなく、仲良くしよ うと思いますか。	◎ 16 ○ 4 △ 0

3 展開の概要

	内 容	備 考
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 自己紹介 ・「子ども大統領」の紹介及び、本時について。 ・普段の生活の中で、「男の子だから」「女の子だから」○○なんだと考えたことなどあったら、聞かせて下さい。 	<p>今日的課題を考える資料</p> <p>本時のテーマについて伝える。</p> <p>日頃感じている男の子・女の子に対する意識を出し合う。</p>
展 開	<p>○教材「子ども大統領」を読んで概要を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども大統領の選挙について ・あやちゃんの決心としょうたくんの戸惑いについて <p>○しょうたくんの言葉「立候補しても きっと男の子に負けちゃうよ」について考える。</p> <p>①子ども大統領は、男の子の方が向いている？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子のほうが元気が良いから ・男の子のほうが強いから ・男の子は、そういうのが好きだから <p>②子ども大統領は、女の子だって向いている？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の子のほうがしっかりしているから ・女の子のほうが強いから ・女の子のほうがおしゃべりが得意だから <p>③子ども大統領は、男の子と女の子のどちらが向いている？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして今まで子ども大統領は、男の子だけだったのだろう？ 	<p>教師が教材を読む。</p> <p>その後で、概要を確認する。</p> <p>近くの人(班やグループ)で、意見交換する。</p> <p>好きなことや得意なことの違い等も話題にする。</p> <p>男の子と女の子の両方の立場から考えてみる。</p>

	<p>○自分たちは、男の子・女の子だから〇〇のように考えている？ (アンケート結果の紹介)</p> <p>●男の子だから…と、考えたことがある？ ある(14名) どちらでもない(5名)</p> <p>*男の子：スポーツが得意、元気、よく遊ぶ Q:女の子でスポーツが得意・元気な人は？</p> <p>*女の子：字が上手、やさしい Q:男の子で字が上手い・やさしい人は？</p> <p>*その他(決めつけて考えていない)</p>	<p>「自分ごと」として普段の生活を見直してみる。</p> <p>望ましい在り方について、考えるきっかけをつくる。</p>
まとめ	<p>○本時のテーマについてのまとめ</p> <p>・子ども大統領の選挙は、どのようにして いくのが良いと思うか考える。</p> <p>(状況をみながら何人かに発表してもらう)</p>	<p>本時で考えたこと(公平な心の大事さ)を基に、どのように考え、行動することが良いのかを自分なりに整理する(男の子・女の子という意識に縛られず尊重し認め合う大切さ)。</p>

- *評価
- ・男子・女子の違いによる偏見などがあることを自分ごととして考えることができたか。
 - ・男子・女子の違いによる偏見を意識した(感じた)ときに、どうすれば良いかを考えることができたか。
 - ・男子・女子の違いによる偏見などに縛られず、互いを尊重し認め合うことの大切さを考えることができたか。

2-2-2. 授業実践例

「子ども大統領」第1回 授業実践報告

日時：令和元年12月17日(火)13時40分-14時25分

場所：北区立 柳田小学校

対象：3年1組 25名

教材：A4紙に「子ども大統領」を縦書き印刷して各児童に配布

授業形態：出前授業(実践：後藤郁子)

	展開	児童の反応
導入	<p>○挨拶 自己紹介</p> <p>「今日を用意してきたプリントを読んで考えてみましょう。正解不正解がないので、なんでも考えたことを発表してください。」</p> <p>○「子ども大統領」を講師が音読。</p> <p>「大統領って知ってる？」</p> <p>・あやちゃんの希望、しょう太くんの意見等内容を確認して</p> <p>「みんなはどう思うかな。これから考えていきましょう。」</p> <p>○自分たちは、「男の子・女の子だから〇〇」のように考えているかどうか投げかける</p>	<p>・子ども大統領というネーミングにとっても興味を示す。活発なクラス</p> <p>・トランプ大統領、プーチン大統領などの名前が挙がった。</p>
展開	<p>講師発言「女の子が大統領に向いてるって思う？ どうして？」</p>	<p>・女子はまとめるのが上手 ・字がきれい</p> <p>・優しい ・先のことが考えられる</p>

	<p>「男の子が大統領に向いてるって思う人もいるね。どうして？」</p> <p>「あ、そうね、大人の大統領は男の人が多い。なぜ？」</p> <p>「テキストでもこれまで子ども大統領は男の子ばかりだったって書いてある。しょう太くんも、立候補しても男子に負けちゃうよ、と言ってるね」</p> <p>○しょう太くんの言葉「立候補しても きっと男の子に負けちゃうよ」について考えてみよう。</p> <p>講師が用意してきたボードをとり出す。事前アンケートで男子のいいところ、女子のいいところを挙げさせたもの。</p> <p>講師発言「元気がいい。スポーツが得意。よく遊ぶ。積極的。これは男子のこと？ 女子のこと？」</p> <p>「じゃあこっちは？ 優しい、字がきれい、きちんとしている」</p> <p>「すぐにわかったのね。これはこの間アンケートで書いてもらったものをまとめたものなんです」</p> <p>「でもちょっと考えて。元気がよくなって、スポーツもできる女子いない？ 積極的な女子は？」</p> <p>「じゃあ、こっちの、字のきれいな男子は？ 優しい男子。きちんとしている男子は？」</p> <p>「そうかー、じゃあ女子も男子もいろいろで、どっちにも言えるじゃない」</p> <p>○近くの人(班やグループ)で、意見交換する。</p> <p>「あやちゃんは大統領に立候補すると言って、しょう太くんが賛成しなかったの、怒っちゃったのね。あなたは思う？ どうしたらいい？」</p>	<p>主に男子が発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動神経がいい ・勇気がある ・積極的 ・力仕事ができる ・体力がある ・準備が早い ・スポーツが得意 ・あきらめない <p>・<u>大人の</u>大統領は男子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく（男） ・女子のいいところを認めないから（女） <p>・すぐに男子！という返事</p> <p>・女子！</p> <p>・○○さん！ △△さん！</p> <p>・□□さんは字がきれいだよ。頭もいい。</p> <p>子どもたちが非常に納得した様子を見せた。</p> <p>並んだ二人で意見交換 考えたことをワークシートに記入、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う ・あやまる ・女子がだめというルールはない ・女子が大統領になってもいい ・二人とも大統領に立候補する ・さべつはだめ、おたがいあやまる ・あやがこうさんすればい
<p>まとめ</p>	<p>○本時のテーマについてのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども大統領の選挙は、どのようにしていくのが良いと思うか考える。「しょう太くん、あやちゃんにメッセージを書こう」 <p>本時で考えたこと(公平な心の大事さ)を基に、どのように考え、行動することが良いのかを自分なりに整理する(男の子・女の子という意識に縛られず尊重し認め合う大切さ、望ましい在り方)。</p> <p>○何人かに発表してもらう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あやさんへ「男の子の大統領がいっぱいいるけど別にルールはないからがんばってね」 ・男女関係なく大統領をやったほうが良いと思いました。 ・しょう太くんへ「無理だよとか言わずに、あやちゃんがんばれとか、プラスの言葉をかけよう」

* 講師の振り返り 評価

- ・積極的に楽しんで意見発表、意見交換ができていた。
- ・男子・女子に対する固定的な観念があったことに気づいた。
- ・男子・女子の違いによる偏見を意識した（感じた）ときに、どうすれば良いかを考えようとしていた。
- ・多くの児童は男子・女子の違いによる偏見などに縛られず、互いを尊重し認め合うことの大切さに気づくことができた。
- ・普段から、男子が積極的なクラスとのこと。「たまには女子が大統領になってもいい」「あやが降参して立候補をやめればいい」というような発言の子どももいた。
- ・担任教員 2 名は当初より関心を寄せ、学年の事情なども考え合わせて、事前アンケートを用意し実施して臨んだ。担任の協力を得られたことは、大変有意義であった。
- ・アンケートを展開のきっかけにすることによって、児童にとっても主題が身近でわかりやすいものになり、教室が活気づいた様子が見て取れた。
- ・本授業の最後のまとめは、子どもたちに内容を振り返って整理させるために、しょうたくん、あやちゃんへのアドバイスを書く、ということにした。

途中で「なぜ大人でも男性の大統領が多いのか」の問いに、女子児童から「女子のいいところを認めない」という発言があった。「女子が機会を得て組織の長となっていくことが公正である」ということに、児童はそれぞれ気づいているが、それが在るべき姿であるのに、なぜ実現しないのか、あるいは男女が機会を均等に持つことがもたらす影響について、など、本授業をどのように展開していくことがふさわしいか、も考えるべきかと感じられた。（報告：滝澤公子）

第 2 回「子ども大統領」授業実践報告

日時：令和 2 年 1 月 18 日（土）全学参観日 10 時 40 分－11 時 25 分



場所：北区立 柳田小学校

対象：3 年 2 組 25 名

教材：A4 紙に「子ども大統領」を縦書き印刷して各児童に配布

授業形態：出前授業（実践：後藤郁子）

	展 開	児童の反応
導入 10 分	<p>○挨拶 自己紹介 「今日は用意してきたプリントを読んで考えてみましょう。皆さんの意見を色々聞かせてください」</p> <p>○「子ども大統領」を講師が音読。 「大統領って知ってる？」</p> <p>・あやちゃんの希望、しょうたくんの意見等内容を確認して「みんなはどう思うかな。これから考えていきましょう」</p> <p>○「男の子が大統領に向いてるって思う人もいる？ どうして？」</p> <p>○「では反対に、女の子が大統領に向いてるって思う？ どうして？」</p>	<p>・参観日ということで、後ろに複数名の保護者が並び、子どもは緊張気味。</p> <p>・トランプ大統領、プーチン大統領。リンカーン大統領の名前も挙がった。</p> <p>主に女子が発言。</p> <p>・女子は弱い時もある。男子は元気がいいから</p> <p>・守ってくれるから</p> <p>・優しいから ・まじめだから</p> <p>・人の気持ちをよく考えるから</p> <p>・女子は喧嘩をしない。やめなさいという。男子だと戦争になっちゃうけど女子は逃げるから</p>

		<p>・男子「それじゃ国を守れないじゃない、男子はやる時は戦うよ」 やや発言に勢いがついてきた。</p>
展開 10分	<p>○しょう太くんの言葉「立候補しても きっと男の子に負けちゃうよ」について考えてみよう。 ・講師発言「男子がいいって意見もでてきたわね、ここでちょっと見てもらいたいものがあるの」 講師が用意してきたボードをとり出す。事前アンケートで男子のいいところ、女子のいいところを挙げさせたもの。 「元気がいい。スポーツが得意。よく遊ぶ。積極的。これは男子のこと？ 女子のこと？」 「じゃあこっちは？ 優しい、字がきれい、きちんとしている」 「これはこの間アンケートで書いてもらったものをまとめたものなんです」 「でもちょっと考えて。元気が良くて、スポーツもできる女子いない？ 積極的な女子は？」 「じゃあ、こっちの、字のきれいな男子は？ 優しい男子。きちんとしてる男子は？」</p> <p>「なるほど、じゃあ女子も男子もいろいろで、ここに書いてあることは、どっちにも言えるわね」</p> <p>○どんな人が子ども大統領にふさわしいのか ・講師発言「それでは男の子も女の子も色々な人がいるとわかったわね、では、子ども大統領って、どんな人になってもらいたいのだろう」</p>	<p>クラス内が活気づく ・すぐに男子！という返事</p> <p>・女子！</p> <p>・○○さん！、△△さん！</p> <p>・□□さんは字がきれいだよ。××さんはやさしい。きちんとしてる 褒めている、その子の良いところとして認めて発言している。</p> <p>子どもたちが納得した様子を見せた。</p> 
展開 2 10分	<p>「近くの人と話し合ってみて。意見交換してみよう」 「こんな人は困る、という書き方でもいい」と助言したが、こういう人がいいという意見を出せていた。 ○発表してみよう。</p> 	<p>班 3 人グループで意見交換 考えたことをワークシートに記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考える人 ・頼れる人 ・怒らない人 ・みんなをまとめられる人 ・みんなの前でしゃべることがわかりやすい人 ・みんなの前でしゃべったことと普段が同じ人、ずっとちゃんとしてる人 ・何でもできる人 ・お手本になる人 ・頭がいい人 ・字がきれいな人 ・他の人のいいところをたくさん見つけられる人
まとめ 10分	<p>○本時のテーマについてのまとめ あやちゃんとしょう太くんはどのようにしていくのが良いと思うか考える。 ・講師発言「あやちゃんは大統領に立候補すると言って、しょう太くんが賛成しなかったので、怒っちゃったのね。どうしたら良いだろう。二人にアドバイスして。」 「しょう太くんとあやちゃんにメッセージを書こう」</p>	<p>・あやさんへ「女子でもなれるよ。でも女子だけってことでもないよ。あやちゃんががんばれ」 ・「ちゃんとやれる人なら男でも女でもいい」 ・しょう太くんへ「男子が今までやってたけど、女子もやりたいって言うてるんだから、女子にもやらせてあげたらいいと思います」 ・あやちゃんへ「別に女子がやってもいいと思う。男子だけ</p>

<p>○何人かに発表してもらおう。</p>	<p>・本時で考えたこと(公平な心の大事さ)を基に、どのように考え、行動することが良いのかを自分なりに整理する。(男子・女子の子という意識に縛られず尊重し認め合う大切さ、望ましい在り方)</p>	<p>やるのはずるいから」 ・あやちゃん「自分のことだけでなく、みんなのことも考える人じゃないと大統領に向かないよ」</p> <p>大統領に人格的なすぐれたものを求め、あやちゃんに「もっと優しい物の言い方をすべき。じゃないと大統領にふさわしくない」、という意見が出た。</p>
-----------------------	---	---

***振り返り 評価**

- ・積極的に楽しんで意見発表、意見交換ができていた。
- ・男子・女子に対する固定的な観念があったことに気づいた。
- ・男子・女子の違いによる偏見を意識した(感じた)ときに、どうすれば良いかを考えようとしていた。
- ・多くの児童は、男子・女子の違いの偏見などに縛られず、互いを尊重し認め合うことの大切さに気づくことができた。
- ・組織の長は男女ではなく、別の観点で選ぶべきということに気づかせたいと、どんな人が大統領にふさわしいか、という展開を試みたが、「皆を思いやれる人がふさわしい」という意見も出て、本資料のあやちゃんが少し自己主張が強すぎ、と感じる児童が多い。子ども同士とても気を使い合っている、積極的に意見を出すことを良しとするよりも、私の強いことをいさめる気持ちが強いことにやや驚いた。

意見を出し合い、考え合ってそこから良いものが生まれる、という経験が浅い場合、資料を講師が読むときの語勢、テキストの言葉の選び方などに気を付けないと、「我儘な人」というように捉えられてしまって、「それぞれの個性を認めあう。応援する」、という展開になじみにくい子どもがいるのかもしれないと感じた。

途中で、女子児童の「女子は喧嘩をしない。やめなさいという。男子だと戦争になっちゃうけど女子は逃げるから」の発言に、男子児童が「それじゃ国を守れないじゃない、男子はやるときは戦うよ」の発言があった。これを、どのように扱うべきであったか、授業後に講師で話し合った。現在は、力の強いものが力で国の関係を作っていくことに、これまでの反省がありつつ、ある程度の妥協があると思われる。これをコミュニケーションで乗り切る国際関係が求められていることを、小さい時から身をもって感じ、取り組む姿勢を持つべきであり、これが男女の問題に流れる大きな底流であることを知るべきであろうと考える。今回の授業により、新しい課題に気づかされた。

***柳田小 貝塚校長の評価**

1組、2組とも子どもたちの発言をうまく取り上げていただき、自分たちの学級のことについて、あるいは、自分の考えについて振り返り、深く考える時間となり、大変、有意義な学習ができました。

「大統領」という役割を話題とした内容でしたが、いま、大統領には指導力という点以外にも、平和をもとめるとか、皆に優しくできるとか、男女を問わない新たな価値観を現代の社会状況からか、子どもたちなりに、評価する点としていることがわかり、興味深いところでした。

これからは、男女というより、よりよい社会の一員としては、どのような心がけをして、生活をしていくか、行動するか、ということ、学校でも子どもたちに考えさせていくことが、大事だと授業を通して考えました。ありがとうございました。

***参観の保護者の意見**

- ・大統領は男の子がなるべき？ 女の子がなるべき？ というテーマで子供たちの意見がいろいろと聞けて面白かったです。子どもたちに合わせたわかりやすい説明でとても楽しい授業だったと思います。
- ・活発な意見が出るような授業の進め方が上手だと思いました。
- ・道徳の時間に大学の先生がやっていただけ、とても良いお話が聞けて良かったです。有難うございました。
- ・男女それぞれのイメージを聞いて、そのイメージと逆の男女で考えるという発想、考え方から、公平、男女は変わらないという考えになるのはわかりやすいと思いました。とても良い授業でした。1時間では足りないと思いましたが、子どもの集中力としてはちょうどよかったのかもしれない。子どもたちが沢山意見を出してすごいと思いました。
- ・子どもたちが意見を言ったり、のびのびと学校生活を送っている姿を見られてとても良かったです。(報告：滝澤公子)

担任による授業実践例と教材検討 子ども大統領（奥沢小）

日時：令和2年12月3日（木）10時30分～11時10分、10時50分～11時30分

場所：世田谷区立 奥沢小学校

対象：4年1組 31名 4年2組 31名

授業実践：担任による通常対面授業

学習指導過程：

事前にアンケートを実施。

- （1）自分が男（女）の子でよかったと思っていますか（2）自分が男（女）の子で得をしたと思っていますか（3）男（女）の子だから～したほうがいい、～するとおかしいと思ったことがありますか。
- （3）で、はいと答えたことはどのようなことですか
- 男の子は女の子についてどのように思っていますか？（女の子は男の子について）

教材から紙芝居を作成、黒板に場面を貼り出したり、登場人物のイラストを貼って、児童の発言を整理したり活用しながら進める。

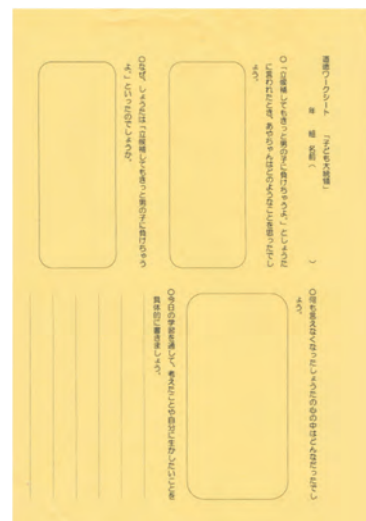
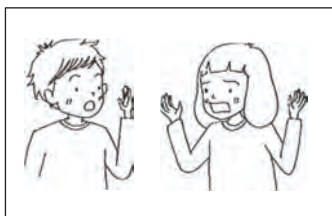
ワークシート項目

○「立候補してもきっと男の子に負けちゃうよ」としよ太くんに言われたとき、あやちゃんはどうのことを思ったでしょう。

○なぜしよ太くんは「立候補してもきっと男の子に負けちゃうよ」と言ったのでしょうか。

○何も言えなくなったしよ太くんの心の中はどんなだったでしょうか。

○今日の学習を通して、考えたことや自分に活かしたいことを具体的に書きましょう。



	学習活動 発問と展開、 ●指導上の留意点	児童の反応（2組） 教師の言葉かけ	児童の反応（1組） 教師の言葉かけ
導入	1 アンケート結果を紹介 ・男（女）の子だから～したほうがいい、～するとおかしいと思ったことがありますか。 用意したカードで問かけ ・男子がピンク色のハンカチを持ったらおかしい？ ・男子が髪が長い、女子が髪が短かったらおかしい？ ・男子が将来ケーキ屋さんになりたいと言うとおかしい？	（10：30～） 最初に自分たちのアンケート結果の発表で、引き付けられる。 男の子だから、女の子だからという意識をもった子は数名。 あまりそのような意識はない人が多いようだね。 どの項目にもおかしくない！ 「僕、幼稚園の時、ケーキ屋さんになりたかったよ」 教材配布 教師が教材紙芝居を読む （10：38）	（11：50） 「アンケートをやったね」と言いながら目の前で記入。注目させる。 はい（3名）。どちらでもない（18名）。いいえ（20名）。 あまり男女でこうするべきと分けて思っていないようだね。 ピンクのハンカチがおかしいと思うのは1名。「パンツはおかしいよ」（男8名） 「全然変じゃない。パティシエとか、男が多いよ」などの発言 教材配布 教師が教材紙芝居を読む
展開	2 「子ども大統領」について話し合う。登場人物のカード	選挙って何？ （女）多数決で決めるみたいな	（11：45～） 紙芝居の場面を貼りつつ内容確認

<p>提示して場面確認</p> <p>黒板に左にしょう太の顔イラスト、右にあやの顔イラストを貼ってそれぞれが言ったことの紙カードを貼る。</p> <p>中央に吹き出しを作ってその中に気持ちを記入していく</p> <p>○「立候補してもきっと男の子に負けちゃうよ」と言われたとき、あやちゃん何を考えていたでしょう。</p> <p>ワークシートに記入</p> <p>黒板に紙芝居の当該場面を掲示。</p> <p>●あやちゃんに共感させ、偏見を持って相手が接してきたときの感じ方を出させる。</p> <p>○しょう太くんは、なぜ「きっと男の子に負けちゃうよ。」と</p> <p>ワークシートに記入</p> <p>●しょう太くんに共感させ、自分の考えが偏見であると指摘されたときの感じ方を出させる。</p> <p>「女子が大統領をやったらだめなの？」と言われたとき、</p> <p>◎すっかり考え込んでしまったしょう太くんの心の中はどんなだったでしょう。</p> <p>ワークシートに記入</p> <p>ペアトーク 隣の二人で話し合い</p> <p>拳手発表</p>	<p>(男) 立候補者がいて投票で選ぶあやちゃんは何を言った？</p> <p>(児) 5年生になったら絶対子ども大統領に立候補するわ</p> <p>しょう太くんは何て言った？</p> <p>(児) 子ども大統領は男子がやるんじゃない？立候補してもきっと男の子に負けちゃうよ (10:48~)</p> <p>この時のあやちゃんの気持ちをワークシートに書いてください。</p> <p>ワークシートに記入後、拳手発表</p> <p>(男) 不満</p> <p>(女) 女子がなんで負けるの？決まってるの？ (女) 女子は無理なの？</p> <p>(女) 男子って誰が決めたの？</p> <p>(男) 選挙もしていないなら、決まったわけではない</p> <p>(男) 女子がもしかしたらなれるかも</p> <p>なぜしょう太くんは「女子が立候補しても負けちゃうよ」と考えたんだろう。</p> <p>「むずかしいなあ」の声あり</p> <p>(女) これまでは男子がやっているから。</p> <p>(男) 自分がやりたいから</p> <p>(女) あやちゃんが文句を言われたらかわいそうだから</p> <p>(女) 女子がやったことがないから女子がなかったらおかしい</p> <p>言い返さずに黙っちゃったねえ。</p> <p>これってどういうこと？</p> <p>(児) 迷ってる</p> <p>考えてワークシートに書いてみて。</p> <p>(11:10)</p> <p>(男) たしかに女子がこれまで子ども大統領になってなかったけど、女子がやってもいいのかな</p> <p>(女) 今まで女子がやってもむりじゃないかなと思われていたけど、あやちゃんに強い気持ちがあるからできるかな</p> <p>(女) 男女関係ない</p> <p>(児) まずいこと (女子だからと差別したこと) を言ったかな</p>	<p>選挙って何？</p> <p>(児童、男女不明) 投票で選ぶことあやの顔イラストとカード「子ども大統領になりたい」</p> <p>しょう太の顔イラストと言葉カード「男の子に負けちゃうよ」</p> <p>を黒板に貼って確認。</p> <p>この時のあやちゃんの気持ちをワークシートに書いてください。</p> <p>発表。</p> <p>(女) 女子がやったらだめなの？ びっくりさせないで (女) ひどい、なんで初めからそういうの</p> <p>(児) いつも男子が勝つとは限らない</p> <p>(女) 私はできないというの、男女差別してるの？</p> <p>(男) 外国にも女の大統領いるじゃん。そんなルールはない</p> <p>(児) いつも男子がやっているからといって、そんな見方は変だろう</p> <p>なぜしょう太くんは「女子が立候補しても負ける」と考えたのか。</p> <p>(児) いつも男子がやってる</p> <p>(女) 女の子が立候補すると意地悪されるかもしれないから。冷やかされないように</p> <p>(男) いつも男子がやってるし、女子にやってほしいと思う人なんていない</p> <p>(女) 負けちゃったらがっかりする</p> <p>(男) 副大統領のほうが簡単だから</p> <p>この学校ではなぜいつも男子ばかり大統領をやってるんだろう。</p> <p>「強い」「昔は男子」</p> <p>(男) 女子が大統領になるのは生意気だっていう考えがある。</p> <p>みんなの中にも女子に生意気だという思いがあるんじゃない？</p> <p>見下す気持ちがあったかもしれない。</p> <p>あやちゃんが「そんなのおかしいわ」と言っていて「しょう太は何も言えなくなってしまった」のカードを黒板に貼る</p> <p>しょう太くんの心の中はどんなだったでしょう。ワークシートに書いてください。 (12:05) 発表</p> <p>(児) あやちゃんはそんなになりたかつ</p>
---	--	--

	<p>3 公平な心で生活することの大切さ</p> <p>(評価) 誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接しようとする ことの大切さについて考えを深めていたか。</p>	<p>(女) あやちゃんのこと自分が決めつけたことに後悔している</p> <p>みんなはどうなの？ 男の子じゃなければだめ、とか女の子じゃなければいけないとか。 しょう太くんは女子がなってもいいかな、まずいことを言ったかなと思ったね。 その人の意思があればやってもいいんじゃない？ と言ってくれた人もいたね。</p> <p>ここで公平な心というのを考えてみたいと思います。誰にも大切なこと。 「公平な心」のカードを貼る</p> <p>だれにも分け隔てなく、別にやってもいい。女子だけだめという決めつけはよくない。公平な心をもって生活できるといいね。 ワークシートに授業を通して考えたこと、自分に活かしたいことを書いてください。(11:13~)</p>	<p>たんだ。ルールや決まりはなかった (男) ふつうのことを言っただけなのに。 (女) 女子が無理とってないし、どうせなれないのに、嫌なきもちになった。 (男) なれないと言い切ってしまうと、もし女子が大統領になったら恥ずかしい (女) (おかしいかと思うけど) みんなそう思ってるんだから (男) 怒らせちゃった、あやまったほうがいい 「男子のほうがいい、という考えがあるんじゃないの？」 ・みんな男子がいいと思ってる ・たしかにおかしいかも <u>という二つの葛藤があるね。</u></p> <p>今日の学習で考えたこと、自分の生活に活かしたいことをワークシートに書いてください。 「公平な心」のカードを黒板に貼る頭ではわかっている、男も女も公平に接したほうがいい。公平な心が大切。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。	<p>難しいことだね。先生が若い時尊敬する人がいたけれど、その人は女の人にはとても上から目線の人だった。そのころはおかしいんじゃないかなと思いつつそれを言い出せなかった。公平な心を意識することは大切なことだね。</p>	<p>男の子が相談してきたことがあって、あまり深刻そうにも見えなかったので、「男だから気にするな」と言ってしまった。言わなかったほうが良かったかもしれない。みんなも同じようなことない？</p>

担任の感想： アンケートで児童の実態を把握できたのがよかった。あまり偏見をもっていない児童が多かったので、最初の具体的な事例を出し、自分の生活と結び付けられるようにした。また、資料の「しょう太くんもすっかり考えこんでしまいました。」の終わり方は、児童にしょう太の気持ちや公平に考えることの価値について考えさせることができるので、よいと思った。資料のボリュームは少ない。出来事や気持ちの揺れが少ないので、扱いにくかった。小学校で「先輩」はあまり使わない。「サッカー部で」なども中学生よりに感じた。

参観者の振り返り： 男女どちらの立場にも偏らず、また、様々な意見を大切に扱って受け入れ、子どもに考えさせようとする担任の進め方がよく感じられた。しょう太が「きつと負けちゃうよ」と言ったときの気持ちを子どもたちに分析させ、「しょう太くんに共感させ、自分の考えが偏見であると指摘されたときの感じ方を出させる。」と狙いがあるが、しょう太くんの気持ちの表出に子どもたちの頭が向いてしまい、「男子がやるのは普通のこと、いつも男子がやっているのはなぜなのか」「いつものこと、普通のことでは正しいのか」の分析に深まっていけないが、そこがポイントであり、深化させたいところである。2組担任は、「女子が生意気だと思う気持ちがある」ことに言及し、そして『女子がやれないのはおかしい』という気持ちと『いつも男子がやってるしー』という二つの気持ちの葛藤がある」という分析をされていて、優れた読み取りと感心したが、そこをもう一步踏み込むと、この問題の根の深さがわかり、進むべき道が少し見えてくるのではないか。

考えの深さの違う意見を並列に、同じ重みづけで並べて、「いろいろな意見があるね」では、「男子も女子も、決めつけられないようにすべき」というまとめになる。子ども達はきちんと感じ取って、差別をしない、という結論に至っているが、例え

ば、「いつも男子がやってるから」というしょうたくんの気持ちの読み取りが出たとき、「なるほどね、そういう考えもあるね」ではなく、「そこはいいポイントだから、ちょっとそこを考えてみようか？」という問いかけで、深掘りする授業は可能であろうか。

教材検討： あやちゃんが多くの内容を一度に語りすぎて、分けて取り上げにくい感があるという指摘もあり、奥沢小校長を交えた検討の結果、しょうたくんの心の動きをわかりやすくする教材改良を行った。

<教材の改良例> 「子ども大統領」 (ルビ省略)

しょうたくんの小学校では、子ども大統領の選挙が毎年3学期に行われます。

次の年の6年生の子ども大統領が、小学校の1年間の目標を決めて、

4月からいろいろな委員会の委員たちと計画を立てて、小学校生活を楽しく良いものにできるよう、実行していくのです。

きょうの全体朝会で、来年度の子ども大統領選挙の立候補者の意見発表が行われました。

しょうたくんたち3年生も、選挙で大統領を選ぶ投票をすることができます。

しょうたくんとお友だちのあやちゃんは、教室にもどってから、立候補者についていろいろ感想を話しています。

「あやちゃん、5年2組の林ゆうすけ先輩、すごいよね」

「カッコよかったー。林先輩はいつも、サッカー部で大活躍だものね」

「副大統領候補のえみ先輩も、『私もしっかり支えてがんばります』って言ってたし。

僕、林先輩とえみ先輩の二人に投票しようっ」と

「小学校を良くする、いろいろな計画を立てようとしてるところがすごく良かったわよね。

わたし、5年生になったら、絶対に子ども大統領に立候補するわ。

しょうたくん、副大統領候補になってよ。二人で立候補しようよ」

しょうたくんはびっくりしてあやちゃんを見ました。

「あやちゃん、副大統領じゃなくて、大統領？ 子ども大統領って、いつも男子がやってるんじゃない？」

しょうたくんがそう言うと、あやちゃんもしょうたくんを見ました。

「女子が大統領をやったらだめなの？ どうして？」

しょうたくんは困ってしまいました。

「どうしてって言われてもさあ、これまでずっと大統領は男子で、女子は副大統領だったでしょ。

女子が大統領で男子が副大統領だと、なんかかっこ悪いよ。

みんな男子の大統領候補に投票するから、あやちゃんが立候補しても、きっと男子に負けちゃうよ」

あやちゃんが、

「大統領は男子がいいってみんな思ってるの？ そんなのおかしいわ。女子だってできると思うなあ」

と言うと、しょうたくんは何も言えなくなりました。

あやちゃんは怒って、だまっています。

しょうたくんもすっかり考えこんでしまいました。

(報告 滝澤公子)

2-3. 「私たちの未来」授業実践

「女性は家事を行うもの、女性に教育は不要」という慣習について、ユニセフの資料なども踏まえて、女性の置かれた立場を考察。現代の日本でも、新型コロナウイルス蔓延下で、女性の家事時間が男性に比して2～3倍になっている調査なども紹介して話し合う。性役割を固定化させている慣習への気づき、性に関わらず、機会が平等に得られるべきであることを認識し、自分たちが大人になったら、どんな大人になりたいか、どんな社会にしたいかを話し合う。柳田小で実施した授業は北区ケーブルテレビ、北区広報課の取材を受け、若年層に向けた取組を評価された。児童にも好評であった。

2-3-1. 授業案

第3学年 道徳科 学習指導案（後藤郁子）

1 テーマ 「ジェンダー平等について考えてみよう」 内容 高学年 公正、公平、社会正義

2 ねらいと教材

○ねらい

1. 男女の違いで教育を受ける機会が異なる社会があることについて考える。
 - ・世界には「女性は教育を受けるべきではない」という慣習や「家事をするのに教育は不要である」といった、伝統的な差別や慣習があることを知る。
 - ・少し前の日本でも、兄弟全員を学校に行かせるのが難しい場合、男の子を優先し女の子は家事手伝いや働きに出るということがあったことを知る。現在も、女性は supportive、補佐的であることを良しとする風潮がある。
2. 人がふみ行うべき望ましい・正しい道を考える。
 - ・あやちゃんの言葉を通し、男女の望ましい在り方・正しい在り方を考える。
「やりたいことを頑張れる人になりたい」について、どう考えるか。
「頑張っている人を助ける人になりたい」について、どう考えるか。
 - ・自分自身が考える男女の望ましい在り方・正しい在り方について、どのように考えていったら良いのかを、自分なりに整理する。

○教材 「私たちの未来」（教材作成：滝澤公子）

○資料 ユニセフの紹介記事や内閣府男女共同参画白書データから、男女の家事従事時間の資料を作成

3. 展開の概要

	内 容	備 考
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 自己紹介 ・「私たちの未来」の紹介 及び、本時について。 ・コロナ禍で、お母さんの家事負担が増えていることについて、理由を考えてみる。 なぜお母さん？ きまりがあるの？ 	<p>今日的課題を考える資料 本時のテーマについて伝える。</p>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を読んで概要を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんの新しい孫（遠い国の女の子）について ・遠い国の女の子の将来の夢について ・お金がなく、兄弟全員を学校に行かせるのが難しい時は、男の子に勉強させることについて ○男女の違いで教育を受ける機会が異なったりすることについて考える。 ①昔は、女の子は家のことをして、男の人を支えるという慣習があったことについて考える。 （おばあちゃんの言葉「ちょっと前の日本もそうだった。おばあちゃんも大学に行きたかったけど、お父さんに、女はそんな必要ないと言われたのよ」にもふれ 	<p>教師が教材を読む。 その後で、概要を確認する 貧しい 8人兄弟 亡くなった妹がいたことと医者になる夢 伝統的な習慣・文化の存在 * ユニセフの資料提示</p>

	<p>て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子のほうが、勉強ができたから？ ・女の子は、勉強ができない？ ・男の子は、社会に出て仕事をするから？ ・女の子も、社会に出て仕事がしたい？ ・女の子は、家の仕事が得意だから？ ・男の子は、家の仕事ができない？ <p>②おばあちゃんは、なぜ、遠い国の女の子の支援をしているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学に行って勉強したかったが、女の子だったために、叶わなかったので応援したい ・女の子でも誰でも、やりたいことをやってみたらいいと思っている <p>○男女の望ましい在り方・正しい在り方を考える。</p> <p>③あやちゃんの言葉「やりたいことを頑張れる人になりたい」「頑張っている人を助ける人になりたい」を通し、男女の望ましい在り方・正しい在り方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やりたいことを頑張れる人になりたい」について、自分はどうか考えるか。夢や、好きなこと・やりたいことはある？ ・「頑張っている人を助ける人になりたい」について、自分はどうか考えるか。 	<p>近くの人(班やグループ)で、意見交換する。</p> <p>男の子と女の子の両方の立場から考えてみる。</p> <p>おばあちゃんの言葉を通して考える。</p> <p>「自分ごと」として普段の生活を見直してみる。 望ましい在り方について、考えるきっかけをつくる。</p>
ま と め	<p>○本時のテーマについてのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が考える、男女の望ましい在り方・正しい在り方について、自分なりに整理してみよう。 <p>(状況を見ながら何人かに発表してもらう)</p>	<p>ジェンダー平等について、どのように考えていったら良いのかを自分なりに整理する。</p>

* 評価

- ・男女の違いで教育を受ける機会が異なったりする慣習（ジェンダー不平等）があることについて認識できたか。
- ・男女の望ましい在り方・正しい在り方について、自分なりに考えることができたか。

2-3-2. 授業実践例

「私たちの未来」第1回 授業実践報告

日時：令和2年10月15日（木）13時40分～14時25分

場所：北区立 柳田小学校 対象：6年1組 25名

教材：各児童に「私たちの未来」をA4紙に縦書き印刷して配布。

資料：講師がユニセフHPから、今回扱う慣習を説明する資料を作成。A4紙1枚

授業形態：出前授業（実践：後藤郁子）

	展開	児童の反応
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 自己紹介 ・「私たちの未来」の紹介 及び、本時について。 <p>○データ紹介と質問</p> <p>コロナ禍で、みんなにストレスが増えていることの例を挙げる（大和ハウス工業（株））。</p> <p>黒板に、「外出自粛によるストレス、新型コロナウイルス対策へのストレスを感じている男女の%データ」を書いた紙を貼り出す。男女とも50～60%。もう一つ、女性が50.7%、男性が31.7%という男女差のあるデータについては、何についてのストレスか、隠し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から集中して授業に参加している ・隠してあるストレスについて、すぐに何人かの手が挙がった。

	<p>て示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師発言「こちらは女性がずいぶんストレスを感じているみたいなデータだけれど、何だかわかる？ 男性より女性にストレスがかかっているみたいだけれど・・・」 <p>○講師発言「今日は、こういう女の人に普通の生活で負担がかかっていることについて、考えてみましょう」</p>	<p>外食ができないこと？ 出かけられないこと？ 子どもの世話が大変だということ 男児による正解が出た。</p>
<p>展 開</p>	<p>○教材「私たちの未来」を講師が音読、概要の確認</p> <p>○資料を読んで概要を確認する。 女性に家事・育児負担、学業不要の慣習のある国の様子などについて資料を示しながら解説。</p> <p>板書：貧しい。8 人兄弟。亡くなった妹がいたことと医者になる夢。伝統的な習慣・文化の存在。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんの新しい孫（遠い国の女の子）について ・遠い国の女の子の将来の夢について ・お金がなく、兄弟全員を学校に行かせるのが難しい時は、男の子に勉強させることについて <p>○男女の違いで教育を受ける機会が異なったりすることについて考える。黒板に以下①、②、③を図示した紙を掲示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが小さい頃の日本にもあった慣習だと言っていることに注意を促す。 <p>①昔は、女の子は家のことをして、男の人を支えるという慣習があったことについて考える。講師問いかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子のほうが、勉強ができたから？ ・女の子は、勉強ができない？ ・男の子は、社会に出て仕事をするから？ ・女の子も、社会に出て仕事がしたい？ ・女の子は、家の仕事が得意だから？ ・男の子は、家の仕事ができない？ <p>②おばあちゃんは、なぜ、遠い国の女の子の支援をしているのか。講師問いかけ</p> <p>○データ紹介と意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また資料を提示して、現在の日本でもこうしたことが当たり前のこととして存在することを解説。 <p>資料：内閣府 令和 2 年版男女共同参画白書から 「仕事のある日における家事育児時間」を表にして提示・女性は男性 2～3 倍家事や育児に時間を使っている</p> <p>○男女の望ましい在り方・正しい在り方を考える。</p> <p>③あやちゃんの言葉「やりたいことを頑張れる人になりたい」「頑張っている人を助ける人になりたい」を通し、どのようにしたら「男女がそれぞれ自分を実現できる社会」になっていくか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やりたいことを頑張れる人になりたい」 ・「頑張っている人を助ける人になりたい」 <p>について、どう思う？ 黒板の図示の中心に板書。「自分はどんな人になりたい？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフのテレビ CM などについて「知ってる」 ・ユニセフの資料を確認 <p>・問いかけに対し、子供たちがそれぞれ明確に、違うという意思表示をしていた 数名が発言。 「男女の違いで学校へ行けないのはおかしい」 「やりたいことができないのはおかしい」</p> <p>数名が発言。困っている誰かを助けることに共感を示す発言も多い。 「自分が大学に行って勉強したかったが、女の子だったために叶わなかったの、そういう子供を応援したい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データをきちんと理解できていた ・近くの 3 名で意見交換 「女の子に勉強させないことはおかしい」 「だれでも平等にするほうがいい」 「なぜ女の子がだめと言われていたのかわからない」 <ul style="list-style-type: none"> ・共感を示す子が多い ・私も頑張る人を応援する人になりたい

ま と め	<p>○本時のテーマについてのまとめ</p> <p>講師発言「今日は、男の人、女の人がどうしたら気持ちよく生きていけるか、どうしたらそういう社会になるか、いろいろ話し合いましたね。まとめとして、あなたはどんな人になりたいか、どんな社会にしたいか、考えたことを紙に書いてください」</p> <p>○講師発言「書いたことを発表してくれる人はいますか？」</p> <p>「みんなが真っ直ぐに、よりよい社会を作りたいという考えを発表してくれてうれしかったです。有難う」</p>	<p>・あまり迷うことなく、どんどん意見を書く子どもが多い</p> <p>「境界線なく、人に接したい（女）」</p> <p>「やりたいことができない人の代わりに自分はやりたいことを頑張る（男）」</p> <p>「あやちゃんのように人を助けることのできる人になりたい（女）」</p> <p>「男女の差別をなくしてやりたいことができる社会にしたい（男）」</p> <p>「授業が面白かった」といっている子どもが複数いた。</p>
-------------	---	--

* 振り返り

評価できる点 導入で子どもたちの興味を引き出し、データなども織り交ぜて平板にならずに進められた。集中力がとぎれることなく、授業に参加、意見発表、意見交換ができており、本時の狙いはかなり良く達成されていたと思われる。

- ・男子が次々に積極的に、「女子が差別されることはおかしい」と発言。
- ・子どもたちはデータを見ることによって、現在も、家事など女子に負担がかかること、「勉強はいいから家のことをしなさい」という慣習が残ることを実感できていた。
- ・子どもたちはとても素直に、「**男女が差別的な扱いを受けることは良くない**」「**自分たちは、だれもがやりたいことをやる社会にしたい**」と述べていた。子どもらしい正義感を感じ、話し合いの様子などにも建前のようなものや、何かしらのでらいのようなものは感じられなかった。
- ・男女差別ということから、**どんな人に対しても平等に扱うべきという広がりを持った意見**が出ていた。「境界線の無い見方をしたい」と述べた女子があった。
- ・歴史的に、世界に共通して、なぜ、女性に対する偏見や差別、慣習があるのか、については掘り下げた話し合いにはならなかったが、感想に、「女性は『自分で産んだから責任をもって育てなさい』っていうのが昔からあったかもしれないし、戦争のときなんかは、男性は戦に行くので、女性が家事をするのが身に付いていたかもしれないので、男女関係なく、学校に通える今を大切に、勉強を大切に、今を幸せに」して、現在は「都知事も女性で、私たちが自由に生きれる（原文のまま）ので、自分のしたいことに取り組んでいきたい」と書いた女子があった。

懸念される点

- ・シナリオで、女の子が、「頑張れる人になりたい、頑張る人を助ける人になりたい」と作った点についてやや懸念があったが、やはり、多くの子どもが、頑張ることに評価を置いていた。「女性があるがままで平等に扱われるべきである」ことを邪魔してしまわないか、引き続き検討したい。
- ・子どもたちに素直な正義感を感じ、そこに、建前のようなものは感じられなかったが、男性に向けた仕事や女性に向けた仕事があるのか、という講師の問いにも、特に大きな反応がなく、まだそうした思いを感じたことがないのかもしれない。質問の仕方を考えると、掘り起こせるのかもしれないが、現在の内容のボリュームでは、時間が足りない。

なお、本授業は北区のケーブルテレビの取材を受けた。若年層に向けた男女共同参画意識醸成という点や、教材化されて展開していくことが興味深いとのことであった。授業後、子ども 2 名に取材を行ったところ、「面白かった」という感想を述べていたとのことであった。

（報告：滝澤公子）

「私たちの未来」第2回 オンライン授業実践例と検討

日時：令和2年11月10日（火） 10時40分～11時25分

場所：北区立 柳田小学校 対象：5年1組 34名


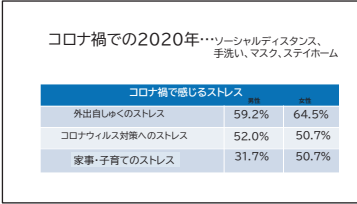
教材：A4紙に「私たちの未来」を縦書き印刷して各児童に配布資料

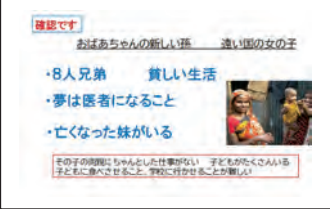
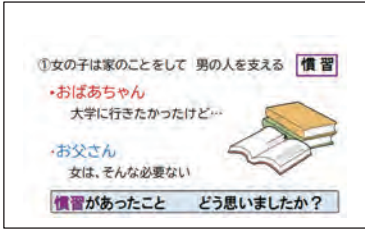
（資料：ユニセフの紹介記事や内閣府男女共同参画白書データから、男女の家事従事時間の資料を作成）

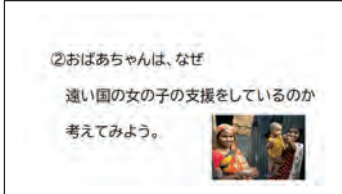
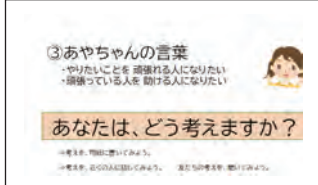
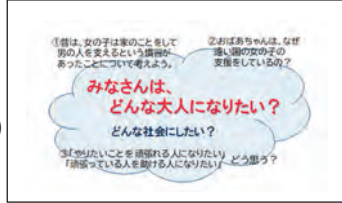
授業形態：遠隔授業（オンライン）・教室内ホワイトボードに講師・パワーポイントスライド映写。実践：後藤郁子

お茶の水女子大学から講師がZoomで遠隔授業を行い、担任が教室の教師用のパソコンで受信して、それをホワイトボードに映し出し、子どもはそれを見ながら、講師の授業を受けた。

本事業において初めてのオンライン授業であったが、滞りなく実施され、子ども達も興味をもって参加できていた。

	展開 講師発言	児童・教室の反応	オンライン
導入	<p>・オンライン開始 ・挨拶 自己紹介 画面（講師） ・「私たちの未来」の紹介 及び、本時について。 ○データ紹介と質問 コロナ禍で、みんなにストレスが増えていることの例としてデータをパワポで紹介。 「外出自粛によるストレス、コロナウイルス対策へのストレスを感じている男女の%データ」を示し、男女差があまりないことを確認。 3行目の、女性が50.7%、男性が31.7%という男女差のあるデータについては、何についてのストレスが書かれていない。 ・講師問いかけ「こちらは女性がずいぶんストレスを感じているみたいなデータだけれど、何だかわかる？ 男性より女性にストレスがかかっているみたいだけれど・・・」</p> <p>○講師発言 「あ、そうなんです。色々あると思うけれど、これなんです。お母さんの家事負担が増えているらしいけれど、原因は何だと思いますか」</p>  <p>○講師発言 「じゃ、こういう家事は、お母さんがやるって決まりがあるの？」 ○講師発言「今日は、こういう女の人に普段の生活で負担がかかっていることについて、考えてみましょう」（10：50）</p>	<p>後ろの席は、講師の顔を見ようとやや背伸び。最初から集中して授業に参加</p>  <p>講師の質問「隠してあるストレス」について、すぐに何人かの手が挙がった。 「外食ができないこと？（男）」 「マスクのひもが痛いこと？（男）」 （講師）女の人にストレスがかかっているみたいだね 「お化粧品がマスクにくっつく（女）」 「子どもの保育園や学校が休みで、面倒をみるのが大変（女）」</p> <p>数名挙手 「一日中家族がいて、食事の献立を考慮するのが大変。三食作らなきゃならない」 「洗濯、掃除などの家事や子供の面倒を見る時間が増える」</p> <p>全員「決まりはなーい！」</p>	<p>児童がそろわず5分遅れで開始（10：40） 講師の声はよく教室に通っている （スライド：コロナ禍での2020年…） Zoomの参加者画面がホワイトボードの右上にあって、スライドの文字にかぶって数字が見えなくなりました。 →子どもの一人が最小化した。担任は、講師の顔があったほうが良いと判断して、また復帰。なるべく上に位置を移動。</p> <p>子どもは発言のたび、教室前のPCに移動して伝える （スライド：コロナ禍での2020年…2枚目）</p> <p>スライド・講師の発言に対応して、教室内から講師に向けての意思表示が上手になっている。 首を振ったり、声を出したり</p>

<p>展開</p>	<p>○「私たちの未来」を講師音読（11：00） ○資料を読んでパワポで概要を確認。 講師問いかけ 「たくさん兄弟がいたわよね。何人？」 「女の子はどんな夢を持っていた？」 「なぜ医者になりたいの？」 「夢をかなえるのは、ちょっと難しそうね。」「ちょっと前の日本でも、女の子に家の仕事をさせる、というようなことがあったっておばあちゃんが言っていたわよね」</p> <p>○資料で慣習について学ぶ 「ユニセフって知ってる？」 「今から配る資料を見てほしいんだけど、読んでみますね」講師音読 女性に家事・育児負担、学業不要の慣習のある国の様子などについて資料を読みながら解説。 伝統的な習慣・文化の存在。慣習という言葉の説明。アフリカにはいまだにこういう慣習がある、日本でもあったこと。</p> <p>講師問いかけ： おばあちゃんが子どものとき、お父さんに「女は大学に行く必要はない」と言われた。こういう慣習があったこと、どう思うか、考えてほしいんです。</p> <p>○どうして女の子に勉強はいらぬといったのかしら。 ・男の子のほうが、勉強ができる？ 女の子は勉強ができない？ ・男の子は社会に出て仕事をするから？ 女の子は社会に出る必要はない？ ・女の子は家の仕事得意だから？ 男の子は家の仕事ができない？ 近くの席の人たちで、2～3分話し合いをしてみよう。 （11：06）</p> <p>講師発言 「発表してもらおうかな。こういう考え方、慣習をどう思った？」 （～11：12）</p> <p>②おばあちゃんは、なぜ、遠い国の女の子の支援をしているのか。講師問いかけ 「2、3人発表してください」</p>	<p>担任が各児童に教材「私たちの未来」を配布</p> <p>「8人！」担任の掛け声で、児童が声を揃えて発言 「医者になりたい！」「妹が亡くなった」 双方向のやり取りができています。</p> <p>・ユニセフのテレビCMなどについて「知ってる！」 ・貧困の女児掲載の資料（ユニセフHPから作成）を配布。</p> <p>資料内容をよく理解できている。</p>   <p>明確に首を振って否定する子が多い。</p> <p>同上</p> <p>首を縦に振る男児もあり。</p> <p>「差別はダメでしょ（男）」 「家の仕事だって、男も頑張れ（女）」 「男だって、家の仕事やるべき（女）」</p> <p>発表。挙手数名「人権がない（男）」 「家事をやりたい人も出てくるから、女の子って決めないほうがいい（女）」 「男の人も苦手だからといわず、やるべき（女）」 「女だって苦手な人もいるけど頑張ってる（女）」</p> <p>「おばあちゃんはそういう経験があるから女の子の気持ちがわかる（女）」 「女の子に権利があるから（男）」</p>	<p>配布は1分ほどで行き渡る</p> <p>（スライド：おばあちゃんの新しい孫）</p> <p>（スライド：女の子は家のことをして男の人を支える。慣習1）</p> <p>（スライド：女の子は家のことをして男の人を支える。慣習2）</p> <p>（スライド：おばあちゃんはなぜ遠い国の女の子の支援をしているのか考えてみよう）</p>
-----------	--	--	--

	<p>○男女の望ましい在り方・正しい在り方を考える。</p> <p>③あやちゃんの言葉「やりたいことを頑張れる人になりたい」「頑張っている人を助ける人になりたい」を通し、どのようにしたら「男女がそれぞれ自分を実現できる社会」になっていくか考える</p> <p>・「やりたいことを頑張れる人になりたい」「頑張っている人を助ける人になりたい」について、どう思う？</p> <p>講師発言：紙にメモ程度でいいのでどう思うか書いてください。</p> <p>書けたらグループで話し合ってみてください」「発表してください」</p> <p>(11:20)</p>	 <p>何を書いてと言われたのか、やや迷う子がある。担任に質問。</p> <p>「あやちゃんのことをどう思うか書くの？私がどう思うかを書くの？」</p> <p>2名挙手</p> <p>「頑張っている人を支えたい（女）」</p> <p>「あやちゃんはとても正しい。僕も助ける人になりたい（男）」</p>	<p>(スライド：あやちゃんの言葉)</p> 
<p>まとめ</p>	<p>○本時のテーマについてのまとめ</p> <p>講師発言「最後に聞きたいことがあります。あなたはどんな大人になりたいか、考えたことを紙に書いてください」</p> <p>「余裕があれば、どんな社会にしたいかも付け足してまとめて考えてみてください」</p> <p>○講師発言「書いたことを発表してくれる人はいますか？」</p> <p>「少し時間が少なくなりましたが、とても楽しく授業ができました。有難う」</p>	<p>割合スムーズに書いている。</p> <p>「みんなが平等になるといい（女）」</p> <p>「人と接することが少なくなっていくので、人との関わりを大事にしたい（女）」</p> <p>終了後、授業が楽しかったという子が何人もいた。PCのそばで講師に話しかける子もいた。</p>	<p>(スライド：みなさんはどんな大人になりたい？どんな社会にしたい？)</p> 

*** オンライン授業参観者の振り返り**

評価ポイント		備考
集中力はキープできていたか。	○	終始授業に集中できていた。授業は途中で意見発表を求めたり、グループ討論をしたり、メモ紙に書かせたり、適度にメリハリがあり、子ども達も楽しんで参加できていた。
講師の声は聞き取りやすいか。指示が受け取れているか。	○	講師の声は、教室内に、程よい音量で流れており、はっきり聞き取れていた。遠隔授業で、子どもがそれぞれ PC を持っているわけではないので、教室内の子どもの声は講師には聞き取りにくい。
教室の声、様子などが講師に伝わっていたか。双方向性	○	担任が、挙手した子どもを指名したり、PCの前に子どもを読んで答えさせたり、言葉をPCに向かって担任が繰り返して講師に伝えるなどしていたが、それほど滞ったりせずにやり取りができており、子ども達の集中も切れていなかった。担任の介入は適切であった。
ホワイトボードは見やすいか。適切に使えているか。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードは黒板の半分の大きさで、PCのパワポ画面を映し出す。位置は黒板と同じ高さ。一番後ろの子は画面を見るのに、やや椅子に腰かけた背を伸ばすようにしていた。 ・字の大きさは、一番大きい題字(32pt)は十分大きかったが、小さい字で書かれた文章もあり、それは見やすいとは言えない大きさであった。しかし、講師は、スライド画面を説明する/注目させる、という使い方ではなく、語りかけて授業を進行しており、その内容が、ホワイトボードで確認できる、という程度に使っていたので、子ども達は問題なく理解できていたように思われた。 ・Zoomで、スライドの画面設定は、分割画面ではなくスピーカービューで行ったが、参加者の画面が右上側に残っていて、やや画面にかがっていた。当初、この参加者画面を消して使おうとし

		たが、講師の顔が見えるほうが良いと担任が判断して、残したまま進化した。 確かに、話している講師の顔が見えることは有効に思えるので、パワーポイントでスライドを作るときに、右上に文字や画像がこないように作るほうが良いと思われる。
プリント類の配布	○	適切。スムーズにできていた。
時間配分	○	まとめの記入もできていた。

振り返り

・導入が大変スムーズであった。手元資料を見るより、むしろオンライン画面で、同時にデータや画像を教室全員で共有しやすく、児童も話しやすいことがあるように思われた。児童は興味をもって講師の話に聞き入った。

・教材を講師が読み聞かせた後、スライド画面で内容を確認しつつ進め、児童もついてきやすいように思われた。

・展開もメリハリがあり、集中力を切らさず、授業に参加していた。

・慣習をどう思うかというグループ討論で、女児が「女だって家事が好きでない人がいるのに、努力してやっている。男子も、努力してやるべき」という意見を述べていた。食器の片づけやトイレ掃除、お風呂掃除など、「率先してやりたがる人がいるとは思えない」仕事を、だれが担当しているのか、というところへ踏み込んだら、より明確になったかもしれない。

講師は、家事労働などで、時間と教育や様々な将来への機会を奪われるのは女の子だということを強調していた。ここにフォーカスして、不公平ではないか、といった認識が共有できると、児童たちにとっても本時の目的が明らかなものになるかもしれない。

・最後のどんな大人になりたいか、どんな社会にしたいかのところには、「女だから、男だからと決めつけない」「差別をしない」「助け合える社会」「平等な社会」などが並び、本授業の狙いは児童に届いていると思われる。

前回、同じ教材の授業を行った6年生は、「男女によって差別的な扱いを受けることはよくない」「自分たちは、だれもがやりたいことをやれる社会にしたい」といった、かなり咀嚼できている意見を述べていた。柳田小では「戦争・人権」といった内容の学びも、それまでに行っていたとのことで、「男女共同参画の課題」が提示されたときにこれらが統合されて、考え方も深化し、より明確になっていくのかもしれない。1年間の成長が感じられた。

今回は北区広報課が授業を取材し、北区のHPでニュース発信、また新聞社各社に配信したところ、東京新聞に記事が掲載された（令和2年11月12日「お茶の水女子大オンライン授業 男女共同参画学ぶ 北区柳田小で」）。また、読売新聞からも電話取材があったという。学校側には、都政新報の取材あり。（報告：滝澤公子）

2-4. 「あやちゃんのやりたいこと」授業実践

女性と職業選択について、教材を作成。日本の女性の社会参画においては、理系分野の専門を専攻する人が少ないこと、意思決定の場に就く人が少ないことが課題と言われている。これに鑑み、「製薬会社の部長職の女性が、母校の小学校を訪問して子供たちと交流。これに触発されて、女子児童が、将来の職業として理系の職業を選択しようとするストーリー」を作成し、授業実践を試みた。

2-4-1. 授業案

- 1 主題名 「職業選択について考えてみよう」 内容：高学年 公正 公平 社会正義 個性尊重
- 2 ねらい
 1. 男女の違いと職業選択は、関係があるのかを考える。
 - ・しょう太くんは、あやちゃんに何と言ったのか考える。
 - ・自分なら、あやちゃんにどんな言葉をかけるか考える。

2. ジェンダー平等の視点から職業選択について考える。

・女の人には向かない仕事、男の人には合わない仕事があるのか考える。

・自分は、大人になったらどんな仕事をしたいか考える。

3. 教材 「あやちゃんのやりたいこと」(教材作成：滝澤公子、授業案：後藤郁子)

4. 展開の概要

	内 容	備 考
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 自己紹介 ・「あやちゃんのやりたいこと」の紹介 及び、本時について ・大人になったらどんな仕事をしたいか聞いてみる 将来の夢は？ どんな仕事がしたい？ 	<p>今日的課題を考える資料 本時のテーマについて伝える。</p>
展 開	<p>○資料を読んで概要を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先輩の話を聞いてみよう」という会について ・山田みどりさんについて 薬を開発して販売する、大きな会社の部長さん 社会に役立つ仕事を続けてきた 現在は、会社を発展させていくかを考える重要な立場 夫に子育てを助けてもらっている <p>①山田さんが、女性ということで苦労したことについて考える。 慎重になると、「女性は決断力がない」と思われるかな 「こうしましょう」と言うと「男性なみの強さですね」と言われる</p> <p>②山田さんの意識の変化の意味について考える。 ・「そんなの関係ない…」と、言えるようになったのは、どうして？</p> <p>③男女の違いと職業選択は、関係があるのかを考える。 ・女の人には向かない仕事、男の人には合わない仕事はある？ 「ある」と考える理由 「ない」と考える理由</p> <p>④ジェンダー平等の視点から職業選択について考える。 ・「ある」「ない」それぞれの理由から、どのように考えたらいい？ ・職業選択は、どのように考えたらいい？ ・自分は、大人になったらどんな仕事をしたい(将来の夢)？</p>	<p>教師が資料を読む。 その後で、概要を確認する</p> <p>「薬の開発」について補足説明をする。 職業選択の理由を確認する</p> <p>部長職について、補足説明を加える。</p> <p>男女の社会認識について知る。</p> <p>職業人/人としての望ましい在り方について考 える。</p> <p>「ある」グループ 「ない」グループ に分かれて考えてみる。</p> <p>職業選択の意味について考える。 職業選択とは、「なぜ、その仕事を選ぶのか」 という自らの意志が大事な要素であることを 確認する。</p>
ま と め	<p>○本時のテーマについてのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識を踏まえて、職業選択について考えたことを自分なりに整理してみよう。 (状況を見ながら何人かに発表してもらおう) 	<p>ジェンダー平等の視点から職業選択について 自分なりの考えを整理する。</p>

* 評価 ・ジェンダー平等の視点から男女の社会認識について考えることができたか。

・職業選択の望ましい在り方・正しい在り方について、自分なりに考えることができたか。

2-4-2. 担任によるオンライン授業実践例「あやちゃんのやりたいこと」

日時：令和2年12月19日（土） 8時35分～9時15分

場所：世田谷区立 奥沢小学校 対象：6年合同 57名 実践：6年担任本田教諭

授業形態：Zoomによるオンライン授業。児童は各自タブレットを配布されおり、自宅から参加。奥沢小から担任が

Zoomで授業を行い、児童は各家庭でタブレット受信して授業を受けた。挙手機能、拍手機能なども駆使。

教材：「あやちゃんのやりたいこと」（教材作成：滝澤公子、奥沢小バージョン授業案：中治未佳）

資料：前もって印刷教材、ワークシートは持ち帰り。児童はタブレットで授業アプリ「ロイロノート」を使用しており、日本初の女性旅客機機長の話が参考資料として配布された。

ワークシート 1. 男女で職業の向き不向きがあると思うか。 2. 山田さんの話を聞いて、あやちゃんはどう感じたと思うか。 3. 今までの自分の生活上で感じたことを振り返ってどう考えるか。


奥沢小授業案

	学習活動	・指導上の留意点 ★評価
導入	<p>1 男女の職業について思ったことを話し合う。</p> <p>○男の人に向く仕事、向かない仕事、女の人に向く仕事、向かない仕事はあると思いますか。</p> <p>・ある。例えば男の人は医者、女の人は看護師</p> <p>・ない。職業は男女関係ない</p>	<p>・潜在的に持っている男女の職業のイメージについて話し合うことで狙いとする道徳的価値への方向づけを行う</p>
展開	<p>2 「あやちゃんのやりたいこと」について話し合う。</p> <p>○「夫がおむつをかえたり、保育園に送り迎えしたり、離乳食も食べさせたり、子育てはずいぶん助けてくれたのよ」という話を聞いて、あやはどのようなことを考えたでしょうか。</p> <p>・母親なのに、仕事ばかりして、子育てしないのはどうなんだろう</p> <p>・そもそも「助けてくれた」という言い方がおかしいかもしれない</p> <p>○部長になったころ、苦労したという山田さんの話を聞いたとき、あやはどんなことを考えたでしょうか。</p> <p>・女性で部長になる人は少ないんだ</p> <p>・なんで男の人ばかりなのだろう</p> <p>◎ 「そんなの関係ない」という話を聞いたとき、あやはどのようなことを考えたでしょうか。</p> <p>・女性だから…と言われても、負けない強さが素晴らしい</p> <p>・女性だと自分で決めたことを貫くことが難しい社会なのかな</p> <p>・これからはこういう人が増えて、平等な社会が築けるといいな</p> <p>3 今までの自分の生活を振り返る。</p> <p>○男の子だから女の子だからと思って行動したことはありますか？その時どんな気持ちでしたか？</p> <p>・委員会で委員長になりたかったけど、女の子だから男の子に遠慮して言い出せなかった。男女の違いはないとわかっていても気を使ってしまい、嫌だと感じた。</p>	<p>・あやに共感させることを通して、子育てに対する偏見的なイメージに接したときの感じ方を出させる</p> <p>・あやに共感させることを通して、この性別はこのようなあるべきという偏見的なイメージと、現在のイメージを比べるときの感じ方を出させる</p> <p>・あやに共感させることを通して、偏見、差別と闘うことを思うときの感じ方を出させる</p> <p>★男女の偏見に接した経験を振り返り公正・公平に接することの大切さについて考えを深めていたか</p>
終末	<p>4 日本初の女性旅客機機長となった藤明星さんについての話を聞く</p>	

評価：偏見を持たずに、誰に対しても公正・公平に接することの大切さについて考えを深めていたか。

授業展開

	学習活動 発問と展開	児童の反応、 教師の発言 【オンライン経過】
<p>導入</p> <p>○本時について：それでは始めます。たくさん発言してください。</p> <p>①男女で職業の向き不向きがあると思いますか。ワークシートに書いてみてください。男の人じゃないと無理な仕事があるかな。発表できる人、挙手機能で知らせてください。</p>	<p>(8:35～) 【講師音声、画像がきちんと届く。児童はほぼ、ミュートなどの操作ができています】</p> <p>(男) 遠洋漁業とか、女性が妊娠したら、全員戻らなきゃならない。筋肉を使う仕事は男性</p> <p>同感の人もいます?あ、いるね～。</p> <p>(女) 会社に勤めるのとかは関係ないと思う</p> <p>(男) 頭の良さは女性。力の強さは男性</p> <p>力の強さは男性、妊娠出産の話も出ましたね。どこなら同じなのかな、何が正しいかな。どうすればいいか考えていきましょう。</p>	
<p>展開</p> <p>○担任が教材「あやちゃんやりたいこと」音読(8:41)この話で気になったところ、注目したところがありますか?</p> <p>○あやちゃんに共感しながら考えていきましょう。</p> <p>山田さんが部長という管理職で忙しい地位にあった。女性はとても珍しかった。その中で悩みながら、</p> <p>②「そんなの関係ない、私という人間がしっかり判断したこと、と言えるようになった」ことに、<u>あやちゃんは</u>どう感じたかワークシートに書いてください。発表</p> <p>○今までの自分の生活を振り返って考えましょう。</p> <p>③行動するときに<u>女だから男だから</u>と考えたことがありますか? また、<u>男女関係ないと強く思った</u>ことはありますか?</p> <p>ワークシートに書いてください。(8:57)</p> <p>○「ロイロノート」を開いてください。資料箱に日本初の女性旅客機機長となった方の話が載っています。解説。女性はいつも「結婚・妊娠出産で女性が仕事を辞めないのか」問われる。藤氏「男女の能力は差がな</p>	<p>「子育てでは夫がとて『助けて』くれたのよ。」に先生は注目。「助けてくれた」という言い方が気になる。先生は夫婦ともフルタイムで働いているから、分担は当たり前じゃないかと思いました。</p> <p>(女) これは「男の人が子育てするのは普通じゃない。女の人がするのが普通だ」って感じ</p> <p>【やや挙手に時間がかかる。担任ならではの、顔を見ながら発言者をピックアップできる】</p> <p>(女) 男女に関係なく、一人の人間として、というところに自信をもらったのではないか一人の人間として、というのは力強い、素敵な言葉ね。</p> <p>(男) 女性だからといわれたならおかしいと思った 正しいと思えないのね</p> <p>(男) 世間一般、女性は男性を支えるというのがあるので、自動車を作るという夢をあきらめかけていた時、山田さんの発言を受けて、夢の力をもらえたと思う</p> <p>(女) 自分が女性だということに関係なく一人の人間として活躍して素敵。自分もやりたいことをやっていこうという気持ちになった</p> <p>(女) 山田さんの話を聞いてあきらめかけていたこと、女性だからといってあきらめずに自分の夢に向かって頑張ろうと思った</p> <p>(男) 山田さんに感動して、自分の夢を追いかけている</p> <p>私は私と思える。夢を追いかけるのは素敵ね、勇気をもらったのね。声を聞いていない人に発言してもらいたいな。</p> <p>(9:00)</p> <p>(女) 男だから、女だからと考えたことない。やりたいことがあればやればいだけのこと</p> <p>(男) 女性だからって子の世話をさせずに、男女問わず夫婦ともに世話すればいい</p> <p>【拍手ボタンで共感あり】</p> <p>(女) 男女問わずにやればいい。迷ったことはある。けれどでもやってみよう、挑戦してみることが大事と思う</p> <p>そうだよ。はっきり言うのは遠慮したほうがいいと思うこと、あるよね。わかる。でも挑戦してみようと思うんだね。</p> <p>(男) 一般常識はあるけど、山田さんみたいに仕事のできる人は登用したほうがいい。自分は迷ったことない</p> <p>(女) 男女関係なく働くのはいいと思った。自分の勉強したいことはしたい</p> <p>(女) 兄がいて、男っぽい言葉や行動をしてしまうと、母から女の子らしくないと言われて不満。子育ても、夫と妻が産んだ子なんだから二人で育てればいい</p> <p>生活の中の話が出てきていいな。女の子らしくって言われたことがあるよね。</p> <p>(男) 自分はサッカーやっていて、スポーツでは男性が上回る。ラグビーとか体を使うことは男性に向いていると思う</p> <p>自分が女の子だったらどう感じる?</p> <p>(同・男) 女の子が体験しにきたことがあって、その子はうまかった。女の中にも強い人はいる。身体の差はある</p>	

	い。女性が働くことで社会に利益があることを理解してもらおう」	男の中にも身体の差はないの？ (同・男) ある (女) 私も女の子は料理が得意という中で、自分は得意でない。男女で差別する必要はない、やりたいことをすればいいと思った【拍手】
まとめ	教師の話を聞く 	先生は小学校の先生なので、女性も多く、仕事も同じなので、男女差を感じたことはない。 夫の職場の集まりに出たときに、社長が「たまには奥さんを手伝ってあげてください」と言っていて「そうじゃないのになあ」と思った。みんなもそんなことに会うことがあると思う。そんな時、自分は自分と思えるようにする。行動に移せるようにすることは大切。

オンライン授業振り返り

学校と各家庭をつないでの授業は問題なく画像・音声とも良好だった。オンライン授業を実施した6年担任は、Zoomの挙手機能や拍手機能を使ってスムーズに発表を促し、言葉かけしながら進めていた。一人ひとりをよく理解しており、信頼関係がうかがえて、むしろ教室より児童が集中して授業に参加できていると感じた。担任は授業最初から自分の意見をはっきりと述べて方向性を示しており、狙いがよく浸透したと思われる。子ども達もよく考え、頼もしく感じた。今回はワークシートを前もって配布しており、記入を行って、後日集めるとのことであったが、児童のタブレットには「ロイロノートアプリ」が導入されており、そこに記載させるならば、即時に児童の記載状況がわかり、発言を指名することも可能と思われる。

(報告：滝澤公子)

3. 実践例に学ぶ

本実践は、北区立柳田小及び世田谷区立奥沢小の多大な協力の下に行われ、様々な検討を加えながら進められた。校長の新たな教育開発方針の下、担任が教材検討作業を受け入れる実力と余裕をもって子どもの指導に当たられていることに敬意を表すると共に、この場をお借りして心より御礼を申し上げたい。子どもたちはどの実践においてもとても素直に、「男女が差別的な扱いを受けることはよくない」「だれもがやりたいことをやれる社会であるべき」と述べていた。子どもらしい正義感を感じ、話し合いの様子などにも建前のようなものや、何かしらのてらいのようなものは感じられなかった。実際、男子はこうあるべき、女子はこうしてはならないと表立って言われて育ておらず、そうした認識は薄い、社会の既成の考えの中で、やはり刷り込みを受けている点も見受けられる。例えば子ども大統領の単元で、しょう太の心を推し量り、「これまで」「いつも」、男子だったからという言葉が繰り返された際に、機会をとらえて「男子がやるのは普通のこと、いつも男子がやっている、はなぜなのか」「いつものこと、普通のことでは正しいのか」を深化させたいと感じた。今回は収録しなかったが「あやちゃんが大統領に立候補すると馬鹿にされる、意地悪される」と懸念する声の出た授業もあった。奥沢小学校の校長は女性であり、子どもたちの中から「女性が校長だっていい」「都知事も女性」という言葉も聞かれ、周囲のロールモデルが及ぼす影響の大きさを感じた。「見たことのないこと」はやはり大きな違和感をもたらす。その意味では現在の社会に、女性のリーダーを意識的に送り出さないとアンコンシャスバイアスが作られ続けてしまう。授業実施者は、こうした発言をとらえて、新しい展開をしていく必要があると感じた。

また道徳授業の進め方において、教師は意見の押しつけになることを極力排除し、児童の意見を等しく受容しようと努力している。例えば今回は収録しなかった学年で、「これまでの慣習を急に変わると混乱が起こることが心配」という意見もあった。これを同じ重みづけで並列することは大切な検討ポイントを無駄にしてしまう。本課題のような、体得すべき命題のある場合は、現状の課題を明らかにし、あるべき姿を児童が心に描けるようにしたいと考える。授業の進め方、あるいは実践の場に、工夫が必要かもしれないと感じた。

(滝澤公子、後藤郁子、大崎章弘)

内閣府男女共同参画局・男女共同参画推進連携会議

「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」令和2年度 実施事業

若年層に向けた男女共同参画意識を醸成する教材「しょう太くとあやちゃん どうしたらいいかな？」

授業案と実践例

令和3年3月

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンター

後援：北区、世田谷区教育委員会

実施協力 北区立柳田小学校(貝塚一石校長)

世田谷区立奥沢小学校(玉野麻衣校長)